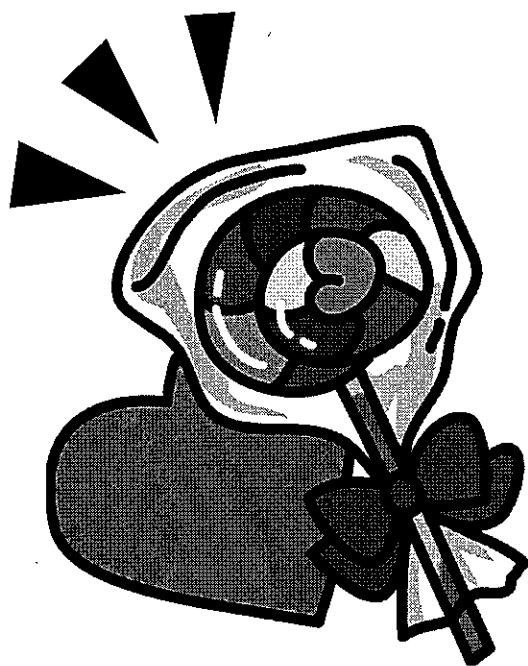


平成22年度・23年度

事業紹介

協働事業&市民活動助成事業



松戸市 協働推進課

はじめに

安心・安全なまち、緑の多いまち、子育てしやすいまち、お年寄りにやさしいまちなど、“市民誰もが暮らしやすいまち”これは、私たち誰もが願うまちの姿だと思われます。

松戸市では、平成 19 年 7 月に「協働のまちづくり条例」を施行しました。この条例では、まちを構成する様々な主体が、目的、目標を共有し、協力・連携しながらまちづくりに取り組む「協働のまちづくり」を推進することで、『誰もが暮らしやすい松戸市』の実現を目指しています。

このようなまちの姿を実現していくためには、市民だけ、行政だけではなく、市民や市職員の一人ひとりが、まちづくりの一員として地域課題に関心を持ち、その解決に向けた活動に取り組むことが必要となります。そのため市では、地域課題の解決に自発的に取り組む市民活動を支援すること、また、それらの活動と市の行政活動が、一緒に地域課題の解決に取り組む協働事業を推進することを施策の柱に掲げ、市民活動助成制度及び協働事業提案制度を創設、施行するとともに、市内や市民の皆様これら制度の普及、活用を図ってきました。

平成 19 年度に制度を施行して以来、4 年が経過しました。お蔭様をもちまして、これら制度には、これまで様々な分野の市民活動団体の皆さんから、多くの提案をいただいております。この 4 年間、市民活動助成制度には、計 53 件、協働事業提案制度には計 65 件もの事業提案をいただき、そのうち、市では市民活動助成制度で 44 事業、協働事業提案制度で 46 事業を採択させていただきました。これまでの採択事業としては、福祉や教育に関する事業から地域コミュニティに関する事業まで、様々な分野で活動が広がっています。

このたびの事業紹介冊子では、このうち、平成 22 年度事業及び平成 23 年度事業の取り組みを紹介させていただいております。市民の皆さんには、これらの取り組みを知ってもらうことで、地域課題やまちづくりへの関心を高め、まちづくりに参加していただくことを期待するものです。

“市民誰もが暮らしやすい松戸市”の実現に向けた、様々な取り組みをご覧ください。今後とも、協働のまちづくりへのご理解、ご協力をお願いします。

平成 23 年 5 月

松戸市 市民担当部 協働推進課長 佐藤 亮一

目 次

○平成22年度事業の取り組み	P. 1
協働事業	P. 3 ~ P. 16
市民活動助成事業	P. 17 ~ P. 32
○平成23年度事業の取り組み	P. 33
協働事業	P. 34 ~ P. 38
市民活動助成事業	P. 39 ~ P. 47

(平成22年度事業の取り組み)

協働事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
	事業担当課	
外国人の子ども支援事業	NPO法人外国人の子どものための勉強会 ----- 市民環境本部 企画管理室 国際交流担当室	P.3
キッズイノベーション事業	特定非営利活動法人サイエンスシャワー ----- 生涯学習本部 企画管理室	P.4
子育て支援ネットワークづくり事業	松戸子育てフェスティバル実行委員会 ----- 子育て支援課	P.5
シニア交流センターにおける生涯学習実施事業	松戸市認定社会教育関係団体やよい会 ----- 高齢者福祉課	P.6
市民後見人養成事業(Ⅲ)	NPO法人成年後見センターしぐなるあいず ----- 介護支援課 障害福祉課	P.7
障害者団体等の農業体験事業	ケア&ファーム ----- 障害福祉課 農政課	P.8
「楽しい健康体操」推進活動事業	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター ----- 保健福祉課	P.9
父親のための育児手帳作成事業	特定非営利活動法人子育て支援ぼくら ----- 女性センター	P.10
地球にやさしい行動宣言推進事業	アースコン・マツド ----- 環境計画課 減CO2担当室	P.11
世代間交流の場・トキ塾	常盤平地域活性隊 ----- 常盤平支所	P.12
福祉作業所に通う利用者の収入アップのための講習会事業	特定非営利活動法人運転免許取得支援センター ----- 障害福祉課	P.13
松戸子育て情報サイト「まつどあ」ホームページの管理運営事業	特定非営利活動法人松戸子育てさぼーとハーモニー ----- 子育て支援課	P.14
皆でつくる根木内歴史公園Ⅲ事業	根木内歴史公園サポーター(根っ子の会) ----- 公園緑地課	P.15
ユースボランティア育成を通じた、子ども会・子ども地域活動の担い手支援モデル事業	特定非営利活動法人こばていー子ども参画イニシアティブ ----- 青少年課	P.16

市民活動助成事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
あなたのまち カラーウォッチング事業	景観色彩を考える会・まつど	P.17
医療セミナー事業	TEAMりぼん	P.18
外出困難者と共に風の中へ事業	特定非営利活動法人さわやか福祉の会 松戸くらしの助っ人	P.19
芸術による認知症予防及び進行抑制の為の事業と、子どもの豊かな感性を育む為の事業	クリニカルアートをひろげる会	P.20
子育ての根っこを育てよう！親子広場「風の子ルーム」事業	NPO法人風の子サークル	P.21
小浜屋敷の森 保全育成事業	松戸里やま応援団「小浜の森の会」	P.22
Jキッズ 子どもまつり事業	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会Jワールド	P.23
生活に役立つ「暮らしとお金」のセミナーと相談会事業	松戸生活やくだちたい	P.24
たすけあい・よろず相談員制度の必要性調査事業	特定非営利活動法人たすけあいの会 ふれあいネットまつど	P.25
手作り甲冑普及事業	松戸手作り甲冑愛好会	P.26
手と手で話そう事業	NPO法人子どもとまつど	P.27
八ヶ崎の森再生整備事業	松戸里やま応援団一起の会	P.28
バリア・バリアフリー体験教室・まち探検推進事業	バリアフリーまつど市民会議	P.29
まちづくりコラボサロン	まつどサロンネットワーク	P.30
まつどのアートな場所マップの制作事業	松風の会	P.31
もったいないツアー事業	松戸市政モニターOB「花草会」	P.32

協働事業

外国人の子ども支援事業	協働事業者	NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
	事業担当課	市民環境本部企画管理室国際交流担当室

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み 外国人の子どもの多くが日本の学校生活に戸惑い、流暢に話せても毎日の授業についていくのに苦労している。この課題解決に向け、外国人の子どもたちが楽しい学校生活を送れるよう支援することを目的に次の4事業を実施した。	事業費	397,640円
	自己資金	40,000円
	(労力換算額:320,000円)	
	負担金	357,640円

① 「スタッフ養成講座—これであなたも日本語の先生—」

平成22年7月18日(日) 市民会館 講師：千葉県教育委員会委嘱研究員・相談員・井上恵子氏

② 「外国人の子ども集まれ！夏休みにほんご教室」

平成22年7月23・24・27・28・30・31日 8月3・4日

市民会館・ゆうまつど

③ 「講座-外国人生徒の高校受験はどうなっているの？」

平成22年9月12日(日) 市民会館 講師：多文化共生センター東京代表・王慧權氏

④ 「がんばれ！受験生 冬休みにほんご教室」

平成22年12月23・24・25・26・28日

市民会館・文化ホール国際友好ルーム

平成22年度事業の成果

- ① 先ずは広く一般に呼びかけ「スタッフ養成講座」を開催した。高校生や一般の方で外国人の子どもに関心のある方など69名(定員50名)の受講があった。その中の44名が夏休みにほんご教室にサブスタッフとして参加していただいた。
- ② 「夏休みにほんご教室」は小学生は5日間(7月23・24・27・28・30日)中学生は8日間(7月23・24・27・28・30・31日 8月3・4日)行った。酷暑、遠路にも拘らず小・中・高校生36名(定員30名)が集まり6グループに分かれて宿題などを行なった。また7月24日にはNGOセーブザチルドレンによる「Hi5!活動」をお願いしたが子どもにも大いに受けた。
- ③ 外国人の子どもの課題の一つが高校受験である。「講座-外国人生徒の高校受験はどうなっているの？」には43名(定員50名)の受講者の中に学校関係者の姿もあった。ワークショップ形式で入試突破のためのポイント(外国人の子どもには会話だけでなく日本語で考えそれを表現することの大切さ)を学んだ。
- ④ 間近に迫った入試に挑戦する中学3年生を対象に「冬休みにほんご教室」を行なった。17名(定員20名)が3グループに分かれて入試対策の学習を行った。全員、真剣に取り組んだ。

以上の事業により、地域の者が地域住民である外国人の子ども支援ができた。今後も継続していく。

【協働事業者紹介】

◆ 外国人の子どもための勉強会 活動内容

- ・ 定例勉強会(火曜教室・木曜教室・土曜教室・文化ホール教室)
- ・ 集中勉強会(夏休み8日間・冬休み5日間)
- ・ おやこ会(12月第2土曜日)
- ・ 中・高校生の集い(平成23年6月19日)
- ・ バス見学会(10月第3日曜日)

◆ スタッフ募集中

《問合せ先》 TEL 047-345-2051 外国人の子どものための勉強会・海老名

協働事業

キッズイノベーション事業	協働事業者	特定非営利活動法人 サイエンスシャワー
	事業担当課	生涯学習本部企画管理室

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

① こども理科実験・理科工作の提供

子どもたちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室（松戸市立柿ノ木台小学校・松戸市立馬橋北小学校・松戸市立六実中学校）を開設した。各会場校において、年間20回の実験をA（1-2年生）コース・B（3-4年生）コース・C（5-6年生）コースに分けて行いました。

事業費	1,740,016円
自己資金	1,680,000円
(労力換算額 : 378,000円)	
負担金	60,016円

② 彩なおとなの活用

「社会貢献を推奨している団体・企業の協力を得て、豊富な知識、バリエーションに富んだ人材を確保し、活用。」

平成22年度事業の成果

① こども理科実験・理科工作の提供

「子どもたちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室を開設し、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めます。」については、ほぼ目標に達し、参加者のリタイヤもなく、充実した理科・工作を行うことが出来た。しかし今年度の理科実験において、秋の長雨による学校行事の順延のため、理科実験教室は休講した。また地震の影響で3月12日（馬橋北小学校）の実験は余震のため安全の担保を確保ができないので休講した。3月26日が最後になった。

参加児童:柿ノ木台小学校1007名(延べ数)六実中学校640名(延べ数)馬橋北小学校 1404名(延べ数) 合計数 3051名

参加率: 168名×20回=3340名 $3051/3340=091$ (91%)

② 多彩なおとなの活用

「社会貢献を推奨している団体・企業の協力を得て、豊富な知識、バリエーションに富んだ人材を確保し、活用。」については、3校からの参加者が190名近くなり、研究所内の施設の見学、研究員によるこども向けのセミナー等につきまして、調整が難しく、今回は行う事ができませんでした。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人 サイエンスシャワー

担当 横田文男

scienceshower.com

〒270-2241 松戸市松戸新田585

tel. 047-367-2663 fax. 047-367-2665

e-mail: info@scienceshower.com

協働事業

子育て支援ネットワークづくり 事業	協働事業者	松戸子育てフェスティバル実行委員会
	事業担当課	子育て支援課

【事業内容】

<p>平成 22 年度事業の取り組み</p> <p>◆私たちの活動目的は、下記の 2 点です</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てをしている人たちに、情報を提供すること 2. 子育て支援団体同士のコミュニケーションを図ること <p>◆目的達成のため、下記事業を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てフェスティバルを 23 年 2 月 27 日、ふれあい 22 にて開催。参加者数は下記。 【一般計 1,718 人】子ども/697 人、大人/1,021 人 【スタッフ計 351 人】民間/255 人、行政/96 人 2. 子育て支援者養成講座を開催。 市内の子育て支援ボランティア希望者を対象に、10/14、21、11/4 の 3 日間開催。 また 10/22-11/3 のうち任意の半日程度、実行委員の施設にて実際に支援体験。 さらに、2/27 のフェスティバル当日もボランティアとして参加。 	事業費	755,130 円
	自己資金	255,130 円
	(労力換算額：247,750 円)	
	負担金	500,000 円

<p>平成 22 年度事業の成果</p> <p>◆情報提供：フェスティバルでは、「つくってあそんで保育園」「げんきのお部屋」など、部屋毎に遊びや情報を提供。情報も、遊びながら相談にのったり、一緒に体を動かしたりする中から発信しました。単に資料をお渡しするだけよりも、しっかり届いたように感じます。</p> <p>◆コミュニケーション：前回から、全体の実行委員会にとどまらず、係り分担や部屋の担当ごとの打合せ回数を増やすように変更しました。そのため、実行委員の意識がさらに高まり協働の姿勢が深まったようです。</p> <p>◆ネットワーク：今回は、各実行委員が自分の団体にとどまらず日頃から協力関係にある団体等にお声をかけ、45 名もの方がボランティアとして参加。「ちーばくん」の着ぐるみで何時間も子どもたちをお迎えするなど、文字通り汗をかいてくださいました。また、駐車場係りをシフト制にして、館内の様子を体感できるように工夫しました。</p>

【協働事業者紹介】

子育てフェスティバル実行委員会

- 〈民間〉 松戸市保育園協議会 松戸市私立幼稚園連合会 (社福) 松戸市社会福祉協議会
 松戸子育て支援センター連絡会 およこ DE 広場ネットワーク 聖徳大学 (社) 千葉県
 助産師会松戸地区
- 〈松戸市〉 子育て支援課 健康福祉会館 保育課 保健福祉課 女性センター 国際交流担当室
 (財) 松戸市国際交流協会 青少年課 公民館 図書館

《問合せ先》 子育てフェスティバル事務局：NPO 法人ねばあらんど
 TEL： / Email: never-land@never-land.info

協働事業

シニア交流センターにおける 生涯学習実施事業	協働事業者	松戸市認定社会教育関係団体 やよい会
	事業担当課	高齢者福祉課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

この生涯学習講座の目的は

- 1 元気高齢者が充実した・生きがいある人生を送るため自己の能力を高め、努力する事を支援し、一人でも多くの元気高齢者を増やすこと。
- 2 松戸市の元気高齢者のための施設「シニア交流センター」で実施することにより、センターの存在を周知し利用度を高めること。
- 3 平成21年度に引続き実施することで、その効果をより高めること。

事業費	185,466 円
自己資金	53,100 円
(労力換算額	: 132,500 円)
負担金	132,366 円

実施した講座内容

	実施年月日	講座名	講師
1	H22.10.19	高齢社会の光と影	総合ケアアドバイザー 鳥海 房枝 氏
2	H22.10.26	循環器疾患とその対応 ー狭心症についてー	新東京病院 循環器科 部長 中村 勝太郎 氏
3	H22.11.02	特養「やわら木苑」見学	「やわら木苑」理事・施設長 伊藤 裕之 氏
4	H22.11.09	高齢者の暮らしとお金	ファイナンシャルプランナー 古澤 陽一 氏
5	H22.11.16	美しい歩き方と健康ウォーキング	NPO 法人ウォーキング研究所 理事長 駒崎 優 氏

平成22年度事業の成果

- 1 成果の一つの尺度として受講者数の推移を見ると

	平成21年度(前年)	平成22年度
講座数	5回	5回
受講者数	79名	130名
延受講者数	169名	275名

受講者数、延受講者数ともに対前年比で見ると約6割強の増であり、成果ありと言える。

これはこれまでの経験をベースに、有効な講座PR活動を徹底したこと。魅力ある講座内容を企画できた事にある。

- 2 受講者満足度

アンケート結果で「参考になった」が殆んどであり、懇親会でも「良かった」の声が多かったことから満足度はかなり達成されたと判断している。

【協働事業者紹介】

やよい会は、高齢者を対象とした生涯学習講座を企画・実施しているグループ。

平成13年より毎年自主企画講座を開講し、今回を含め10回の実施となる。

平成21年度・22年度は高齢者福祉課とタイアップし、協働事業として実施。

設立： 平成13年4月

代表者： 近藤 剛

問合せ先： やよい会（近藤 剛） TEL&FAX 047-345-1448

協働事業

市民後見人養成事業（Ⅲ）	協働事業者	NPO 法人成年後見センター しくなるあいず
	事業担当課	介護支援課・障害福祉課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み	事業費	392,161円
<ol style="list-style-type: none"> 市民の成年後見制度への関心と支援活動への参加意欲の昂揚 <ul style="list-style-type: none"> 第4回市民後見人養成講演会を開催 福祉拠点への出前講座開催（5回） 後見支援活動へ意欲を持つ人達への情報や知識の提供 <ul style="list-style-type: none"> 第1回相談支援員研修会の開催 成年後見事務支援への参画希望者に後見実務体験の場を提供。 <ul style="list-style-type: none"> 市民後見協力員として登録した17名の中から、順次、当法人が受任した後見事務につき、被後見人との適性に応じ身上監護を主体に、支援実務に参画してもらっており、今期は11件の受任に対応中。 	自己資金	68,161円
	(労力換算額：327,000円)	
	負担金	324,000円

平成22年度事業の成果

- 第4回の市民後見講演会には92名の参加があり、うち一般市民の参加は17名とあまり伸びなかった。しかし、アンケートによると、このうち25%の人が「市民後見に興味があり、活動してみたい」との回答であった。前前年 9.3%・前年 6.4%からすると、一段と活動意欲は高まってきたように見える。
- 第1回相談支援員研修には定員50名の募集に、62名の参加希望があり、もっと質疑応答の時間を増やして、ぜひ継続して開催してほしいとの意見が多かった。
- 本事業の取組みの目的の一つは、後見支援者不足に備え、市民の中から適性のある人材を確保、養成し、地域市民の力を活用した後見制度の活性化を図ることであった。
この1年間の協働事業期間に、千葉家裁より11人の法人後見オーダーを受け、市民後見協力員参加の場を拡大できたことは、この協働事業による直接、間接の成果ではなかったかと、強く認識している。

【協働事業者紹介】

市内知的障害者の親族を中心メンバーに平成16年4月より ①成年後見相談・申立支援 ②支援人材の養成 ③法人による後見受任 ④後見制度利用活性化のための啓発・広報活動 等を行っている。

平成18年11月 NPO 法人設立 会員127名

・連絡先： 〒270-0092 松戸市松戸1292-1 シティハイツ松戸510

TEL 047-702-7868 ・FAX 047-702-7869

・後見相談予約： TEL 090-9347-8346

協働事業

障害者団体等の農業体験事業	協働事業者	ケア&ファーム
	事業担当課	障害福祉課・農政課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

「農業で働いてみたい・農業を体験したい」と言う障害者が農業体験の出来る環境を整備し 地域・農家との関係を構築する。

事業費	660,000円
自己資金	160,000円
(労力換算額)	405,500円
負担金	500,000円

・ 障害者施設との就農体験プログラム

福祉施設利用者を対象に就農体験と研修を行った。
地域の農家を招き実習の指導を行うと共に交流も図った。
地域内で農地にて作業を行い、活動する姿を見せる事によって障害への理解を進めた。

・ 障害者と家族の農業体験プログラム

障害者とその家族を主な対象として、農業体験を行ったボランティアやその他の参加者と一緒に活動する事により相互理解を進めた。



平成22年度事業の成果

・ 障害者施設との就農体験プログラムでは、9回開催し体験と地域農家の指導による研修を行った。一度参加された方が、プログラムを楽しみにしていて、繰り返しリピーターとして参加される事も多かった。 地域の高齢農家に実習指導をお願いした。回を重ねると「障害があっても色々な事が出来るんだね」と前向きな評価をいただいた。 地域の農家にも、実際に活動する姿を見てもらう事によって、「袋詰め作業なんかもできる？」などとの声もあった。

・ 障害者と家族の農業体験プログラムでは、田植えや稲刈り・収穫祭などのイベントを開催 毎回30~50名の参加があった。保育園児やその兄弟たちの参加もあり、健常児やその家族との交流も一緒に作業をする事によって行われた。 また、植え付けから収穫・食べるまでを一貫して体験し、食育の視点からのアプローチを図った。
また、参加者の中からももう少し少人数で、じっくりと体験したいとの声が上がリ 障害児とその家族が中心となり、農業体験を追加で実施をした。

【協働事業者紹介】

ケア&ファーム

- ・ 障害者の農業体験の支援
- ・ 保育園児の農業体験・食育活動
- ・ 遊休農地・耕作放棄地の再生活動

《問合せ先》 ケア&ファーム 担当 唐澤
電話 090-9670-8592
メール karakara@mx3.ttcn.ne.jp

協働事業

「楽しい健康体操」 推進活動事業	協働事業者	特定非営利活動法人 人材パワーアップセンター
	事業担当課	保健福祉課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

「楽しい健康体操いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジ

1、取り組んだ課題と事業

高齢者が生き生きと自立して過ごせるよう、自宅近くで楽しい健康体操（介護予防運動）が出来る「場」を松戸市内に開設（22年度5か所設置）します

そのため、**高齢者運動指導員**と「場」の教室運営に当たる**マネージャー**育成を進め、養成講座・実技研修を実施。

2、楽しい健康体操の対象者は、おおむね**65歳以上**の方です

3、事業は、NPO法人人材パワーアップセンターと松戸市保健福祉課との**協働事業**で推進します。

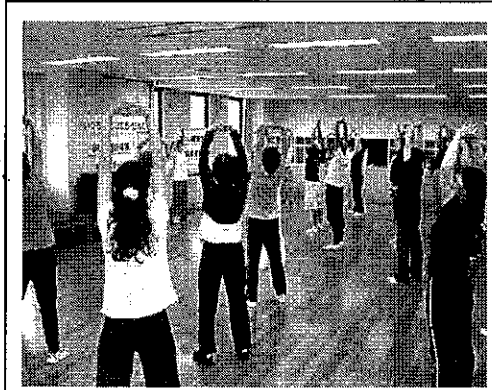
4、事業内容

○**高齢者運動指導員**育成 ○**推進マネージャー**養成

○**提供する【場】の普及推進・質の向上**

「いつでも・どこでも・だれでも」継続して体操が出来る環境を整えることで、多くの方の健康を維持し、**福祉予算抑制に寄与**すると共に、地域活性化に貢献することを目指しました。

事業費	758,026円
自己資金	513,270円
(労力換算額：477,000円)	
負担金	244,756円



平成22年度事業の成果

[小金北・馬橋・馬橋東・八柱・常盤平で教室開始!]

○**高齢者運動指導員10名**の育成

○**運動教室5教室**の開設

○**マネージャー8名**の育成（企画・立案・会場運営）

○**アンケート**の実施

アンケート実施で、高齢者が楽しく安心して集まれる「場」おしゃべりができる「居場所」「仲間作りの場」「生きがい発見の場」への展望がわずかながらにも見えてきています。これからも**利用者に対する謙虚な心**を忘れず、スタッフ間の**和とレベルアップ**を目指していくことを確認しています。



「いつでも・どこでも・だれでも」松戸市内で健康体操が出来ることが私達の思いです。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人 人材パワーアップセンターの活動理念は

「地域の人たちの思いや夢の実現を支援し・実践し、生きがいの発見と地域の活性化を図る」ことです

この基本理念に基づきNPO法人人材パワーアップセンター内の、各チームが、それぞれ「受益者視点に立ちそのニーズと深く合致する社会サービスを単純明快でシンプルなコンセプトで提供」する活動をしています。自分も周りの人も楽しくなる社会サービスモットーは「わくわくいきいきたのしくね!」です

詳しくはホームページ www.npo-jpuc.jp をご覧ください

《問合せ先》 NPO法人人材パワーアップセンター 松山三郎 047-369-5737

協働事業

父親のための育児手帳作成事業	協働事業者	特定非営利活動法人子育て支援ぽこら
	事業担当課	女性センター

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

- ・ 忙しい父親が限られた時間で効率よく取り組める育児の手助けツールを作り、そこから男性への育児支援に取り組もうと活動をはじめた。

事業費	219,236円
自己資金	41,936円
(労力換算額)	156,000円
負担金	177,300円

- ・ 22年度は1. パパ手帳作成のためのボランティアを養成する
 2. 手帳を編集、印刷し完成させる
 3. 広報、配布をはじめ 以上3点を事業の柱として活動した。

1. 連続5回講座 参加者 毎回約15人(保育付で行った)

講師に安藤哲也氏(ファザリング Japan 代表理事)

市職員で先輩パパ

内容は講師の育児休暇中の体験談や普段の育児への関わり、現在の松戸市在住の男性が育児と仕事をどのような意識でとらえているか等の講義を受けた。また、毎回グループワークで話し合いをもった。

2. 松戸で初めてのパパ手帳を作る、パパの育児を応援したいと、講座受講者は全員、編集ボランティアとして活動した。編集会議は毎月数回行った。

小さな子ども連れの人たちも、毎回参加することができた。

松戸まつりでは父親たちの「今」の気持ちを知らうとボランティアのスタッフとともにアンケートを行った。

このことにより手帳の内容に父親たちの意見を多くすいあげることができた

3. 手帳を印刷、完成させた。

子育てフェスティバルで手帳をお披露目した。来場者様々な人たちに広報、配布した。

手帳に関心を持ってくれる人が大勢いたのは、次年度の活動に向けて大きな励みとなった。



である父親をはじめ、

平成22年度事業の成果

パパ手帳作成のためのボランティアを養成できたまた、受講者がボランティアスタッフとして活動してくれた。

様々な父親・母親たちの意見・気持ちを聞くことができ、手帳の内容に反映させることができた

市内の父親・母親たちへ配布をはじめることができた

男女共同参画の視点を持った男性の育児を応援するツールを作ることができた。



【協働事業者紹介】特定非営利活動法人子育て支援ぽこら

小さな子どもと親が元気で安心して生活できるように活動しています。

- ・ 松戸市委託事業 (おやこ DE 広場ゆうまつど・おやこ DE 広場南花島)
- ・ 1才から3才までの親子の遊びと交流 (プレガーデン・チューリップ・ゆうキッズ)



《問合せ先》 URL <http://www.geocities.jp/pocora616/>

e-mail pocora060620@yahoo.co.jp

協働事業

地球にやさしい行動宣言推進事業	協働事業者	アースコン・マツド
	事業担当課	環境計画課減CO2 担当室

【事業内容】

<p>平成22年度事業の取り組み</p> <p>この事業は市民が「知る」ことから「行動する」段階にステップアップするためのツールである「行動宣言」制度の啓発並びに普及活動を通して、省エネ行動や地球温暖化防止対策に自主的に取り組む市民を増やし、家庭部門のエネルギー消費削減、CO2排出削減につなげ、脱温暖化社会に導くことを目的とした。平成23年3月の東北関東大地震による原発トラブルに端を発した節電運動、特に「家庭における節電方法」とは同じ活動である。本年度は、これまで展開実施してきたイベントを展開する上に、次の方針で行動宣言者の増加の可能性のあるイベントに注力することにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 当初計画に含まれていないイベントも他の団体や小学校等より要請があった場合に、必ず実施する方針で進めることにした。 2、減CO2リーダー養成講座など、減CO2推進者のレベルアップを企画した。 3、宣言書の回収目標は、A宣言+B宣言15,000枚とした。 	事業費	428,058円
	自己資金	113,058円
	(労力換算額：297,000円)	
	負担金	315,000円

平成22年度事業の成果

- 1、イベント実施回数は、18回(15回以上)と小学校出前講座：6回(2回以上)で計画より実施回数は増加した。 延べ参加者数は1,072人、H21年度の847人を上回った
3年間の参加者数の経緯は、H20年度500人 ⇒H21年度847枚 ⇒H22年度1,072人
- 2、A&B宣言者合計は、1,4889枚で目標に若干届かなかったが、H21年度9,068枚を大幅に上回った
3年間の宣言者数の経緯は、H20年度840枚 ⇒H21年度9,068枚 ⇒H22年度14,889枚
- 3、宣言者の大幅増加した主たる背景は、「まつど減CO2の日」に小学校を通しての一斉行動宣言が21年度の6,882枚から22年度は13,042枚と倍増したことにある。
- 4、イベントにおける平均参加率は64%で、人気イベントのエコクッキング教室、マイバック自作教室は短期間で定員に達成、省エネ実践講座や成人環境講座が高参加率であったのは、広報に努力した結果であった。広報記載内容には今後も工夫を要する。
- 5、成人環境講座は「バイオマス」って何でしょう”をテーマで開催した。これまでの省エネを中心とした活動を広げる為に、バイオマスエネルギーを考え、農業の地球温暖化防止を考える機会を企画実施した。

【協働事業者紹介】

アースコン・マツドは平成14年4月に県知事より委嘱を受けた県地球温暖化防止活動推進員の有志によって設立され、現在23名(男性12名、女性11名)の会員で運営されている。

平成20～22年度の3年間は、市との協働事業を行い。地球温暖化防止の普及活動として省エネ実践講座、親子の環境講座、エコクッキング教室、マイバック自作教室、成人環境講座、小学校へ出前講座等、年間約26イベントを開催した。平成22年12月地球温暖化防止月間で、対策活動実践部門として「地球温暖化防止活動環境大臣賞」の表彰状を受賞した。

問合せ先 代表 川上 和子
事務局長 土田 茂通 松戸市小金原8-25-2 TEL 047-343-0016

協働事業

世代間交流の場・トキ塾	協働事業者	常盤平地域活性隊
	事業担当課	常盤平支所

【事業内容】

<p>平成22年度事業の取り組み</p> <p>常盤平地域活性隊は、地域住民交流の場として、平成19年3月以来、音楽とアートを中心に各種イベント「トキサイ」を開催してきておりますが、「トキサイ」の一事業として、このたび、住民参加型の学習塾「トキ塾」を立ち上げ、地域活性化をより一層推進することといたします。コミュニケーション不足が叫ばれている現代社会では高齢者に限らず若者も生きがいを持って生活することが最重要課題です。これら「生きがい」をテーマに取り扱う、団体、組織、各種趣味講座や生涯学習講座など数多くありますが、今回、提案の「トキ塾」は、単なる特定の人たちや、同じ年齢層の集まりで構成され、一方向的に行う啓発講座とは一線を画したものと考えています。今年年間15回の講座を開催して、世代間の交流も含め、できるだけ多くの住民が、気楽に参加でき、講師と参加者および参加者同士が、学びながら双方向的にコミュニケーションをはかれる機会と場所を提供いたします。「トキ塾」の参加型学習を通じて、地元町内会、自治会、地域団体及び行政と、交流の場をさらに広げていき、住民同士が、必要な時に、いつでも、誰とでも、気軽に声を掛け合える、笑顔で挨拶ができる、そんなコミュニケーションのとれる風通しの良い地域づくりの一助になるようにいたします。</p>	事業費	265,206円
	自己資金	50,456円
	(労力換算額: 257,000円)	
	負担金	214,750円

平成22年度事業の成果

世代間交流の場・トキ塾を15回実施いたしました。その内容は紙トンボや工作作りの「ものづくり系」、陶芸教室や初めての油絵などの「アート系」、マネー講座や科学教室などの「学習系」、世代として一番参加の少ない青年世代を対象とした「青年の社会貢献と今時の婚活事情」などの講座を開催いたしました。何人かの外国人の方の参加や、リピーターの方と新しく参加された方々の交流、参加している子供たちに講師の方と共に優しく教えてくれる高齢者の方など、幾つもの新しい交流が出来ました。全体の参加総数は15回で247名の参加で、初年度の目標には少し足りませんでした。近隣の学校へのチラシの配布3000枚や新聞折込4000枚などの工夫により、少しづつ定着してまいりましたので、今後さらに継続して、より多くの方に参加していただき、住民同士が、笑顔で挨拶ができる、コミュニケーションのある風通しの良い地域づくりに向け、なお一層の努力をいたします。

【協働事業者紹介】

常盤平地域活性隊とは、孤独死の町として有名となって元気がなくなった、常盤平地域を活性化するのが目的のボランティアグループ。常盤平団地は昭和30年代に完成した、団地の草分け的な存在、日本の高度成長期時代を支えた緑あふれる歴史のある街で、常盤平地域の色々な方々と協力してまちの活性化を目指しています。「トキサイ」(常盤平祭と常盤平を彩るなどの願いもこめた名称)というイベントを開催し、商店街広場を中心として音楽やパフォーマンス、アート展示、街歩き等を実施しており、楽しみながら人々とコミュニケーションをはかり、誇りと夢を持ちながら常盤平を元気にしていくことを目的として活動している団体です。

《問合せ先》常盤平地域活性隊事務局 榎本 電話090-8946-9554まで

協働事業

「福祉作業所に通う利用者の収入アップのための講習会」事業	協働事業者	特定非営利活動法人運転免許取得支援センター
	事業担当課	障害福祉課

【事業内容】

<p>平成22年度事業の取り組み</p> <p>松戸市内40箇所の福祉作業所に通う利用者の収入アップを目的に、福祉作業所の施設長、職員を対象に、売れる商品づくりのための実技を含めた講習会4回を開催しました。</p> <p>講習会は、松戸市推薦の福祉作業所から3人の委員を含め、「講習会委員会」を設置。開催日時、プログラム内容、講師、講義内容などについて、検討を重ねて実施。平成22年度は、3ヵ年計画の1年目として、「気づき」をテーマに、厚生労働省などで検討されている方針の最新情報を始め、ゼロから立ち上げた福祉作業所で成功している作業所や新たな試みを実施している作業所などの事例、事業体としての福祉作業所を捉えて経営的観点から「何ができるか」をグループワークで行ったワークセッション、オリジナルレシピで売れる商品づくりを視点に入れて今年度は調理実習で紅茶のシフォンケーキなどの調理実習を行いました。これらをホームページやポスター（松戸伊勢丹、ボックスヒル、JR松戸駅構内）に掲示し、協働事業の広報を行っています。また、ワークショップや受講生アンケートから市内の福祉作業所の現状の生の声からの課題抽出を行いました。</p>	事業費	974,944円
	自己資金	474,944円
	(労力換算額：726,500円)	
	負担金	500,000円

平成22年度事業の成果

講習会は、松戸市内40箇所のうち、36箇所の受講申し込みがありました。参加した受講生からは、「勉強になった」「そんな見方もあるのか」（受講生アンケートでは97%以上がプラスの声）などの反響。「今を知る」「できることを考えて見る」という第一歩の視点からは大きな成功を収めました。また、受講生アンケートは、現在の市内の福祉作業所が抱える課題が生の声として、改めて認識できる内容となっています。また、今回の受講生である福祉作業所の自主生産品を大手企業3社のイベント販売につながっています。

講習会を行ったことと言える「講習会委員会総意」

当初、3年計画であった1年目の「気づき」をテーマに、行った講習会は、

- ・ 松戸市では福祉作業所を対象に初の試みで行った講習会（初めの一歩）。
- ・ 市内の作業所の課題とニーズの抽出を行うことができた。
- ・ 障害のある人の日中過ごす場所としての福祉作業所が利用者確保や事業収入を得るために、それぞれの強みを活かしていくためには、個別の具体的な手法（営業、広報、商品づくり、人材管理、販売促進、質の向上など）を行う上で、体系的な学びが必要。また現在、多い所では数千万円の補助金にて法人経営を行う中で、一般的な実務に携わっていらっしゃる中で一人ひとりの受講者の資質に差が大きくあり、一部の方を除き、外部の情報収集も含めて学ぶ機会が必要とされています。また、福祉作業所が学ぶ時間を作るためのシステムづくりが必要ほか。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人運転免許取得支援センター

千葉県松戸市に本所、東京都荒川区・世田谷区、宮城県仙台市に支所があるNPO法人。

(URL <http://www.for-dab.jp>)。任意団体時を含め、16年間障害のある人の自立支援のための相談支援、福祉作業所の利用者支援を行う。免許、福祉車両、福祉作業所に関する支援は医療関係者も含め、専門家が揃う。雑誌や新聞などのメディアにも取り上げられる。

《問合せ先》TEL 03-5699-1613 FAX 03-6203-8515 代表 神川麻紀

松戸子育て情報サイト「まつどあ」 ホームページの管理運営事業	協働事業者	特定非営利活動法人 松戸子育てさぼーとハーモニー
	事業担当課	子育て支援課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

＜事業の実施内容＞

子ども・子育て情報の一元化

- ☆子育てホームページ内容の充実
- ☆運営体制の基盤づくり
- ☆子育てネットワークの拡大・強化

22年10月よりまつドリーム事業に移行

- ・年齢別行政情報が得られるマイページ (myまつどあ)
- ・FAQ (よくある質問)
- ・乳幼児一時預かり空き状況
- ・テーマ別子育て掲示板

母親の社会参画の支援

☆ホームページリニューアルに伴い、
編集スタッフのスキルアップのため、研修会を開催。
☆ホームページが見られない人のために、『まつどあ通信』
を発行



事業費	342,508円
自己資金	40,068円
(労力換算額: 311,625円)	
負担金	302,440円

平成22年度事業の成果

- ☆認知度が高まり、より多くの子育て家庭や支援者にも情報が届くようになった。
- ☆アクセス数の解析、アンケート導入により評価システムの仕組みづくりができてきた。
- ☆ホームページとしてまつどあを見ることができない人のために『まつどあ通信』として発行。
- ☆企業や子育て支援団体などとの連携も積極的に行い、サイト内もより充実した内容になった。



松戸子育て情報サイト

まつどあ

<http://matsudoor.com/>

まつどあ

検索

【協働事業者紹介】

NPO法人

松戸子育てさぼーとハーモニー

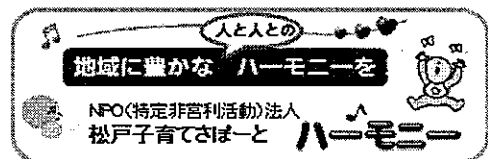
＜主な活動拠点と事業＞

- ◆野菊野こども館 (野菊野団地内)・・・火～日曜日開館
- ◆おやこDE広場北小金・・・月、金曜日開館
- ◆おやこDE広場小金原・・・水・木・金曜日開館
- ◆E-こどもの森・ほっとるーむ新松戸・・・火～日曜日開館

《問合せ先》 E-mail: harmonyjp2006@yahoo.co.jp

090-9141-0128 (石田)

「子育てしやすいまち☆松戸」を目指して、
子どもたちや子どもに関わる人たちと手をつなぎあい、
自分らしくイキイキと過ごせる環境づくりに取り組んでいます。



協働事業

皆でつくる根木内歴史公園Ⅲ	協働事業者	根木内歴史公園サポーター (根っ子の会)
	事業担当課	公園緑地課

【事業内容】

平成 22 年度事業の取り組み

「歴史とみどりと水の調和」をテーマとした公園を「身近な自然とふれあえる場」として、広く来園者に愛され、活用される公園とすることを目的として、自然豊かな公園づくりを目指している。

根っ子の会は公園緑地課との良好な関係で協働事業を推進していく。

- 1) 定例活動: 毎週金曜日、第 2(金)ミーティング
- 2) 調査観察会: 花ごよみ観察会、湿地定点の調査観察
- 3) イベント開催: ①家族と子どもたちを対象としたもの(虫の観察会、夏休み工作づくり)、
②一般の大人を対象としたもの(ヨシ刈り体験)、③会員と里やまボランティアを対象としたもの(鳥の観察会、剪定実習)等、④その他(森の音楽会、写真展開催)、⑤その他の活動
田んぼを造成し、田植え、稲刈り、収穫によるお餅つき会とお楽しみ会を開催。
- 4) 広報活動: ①HP は定例活動および調査観察の記録、イベントのお知らせと写真報告等を掲載
②掲示板(3 基)には、イベント開催・花情報・自然の見どころ・歴史や地形に関する情報を掲載
③イベントのチラシ配布、近隣町会の掲示板にポスター掲示

事業費	532,875 円
自己資金	71,575 円
労力換算額:	992,000 円
負担金	461,300 円

平成 22 年度事業の成果

公園づくりは開園した時がスタートであり、「公園をどのように保全し、育て、利用していくか」という課題をもち、行政を交えて会員間で合意形成を図ってきた。作業活動と観察調査等を継続実施し、四季を通じての景観保持や園内の危険低減ができ、来園数が増えている。

今年度も、「夏休みの工作づくり」「虫はかせになろう」のイベントが盛況。「公園で楽しむ音楽会」は 11 月に開催で参加者 120 名、その他各種イベントを開催。湿地中央に手づくりの木道を造り、80 m²の田んぼ造り、5 月に田植えとお餅つき・お楽しみ会、12 月にお餅つきとお楽しみ会を開催した。

3ヶ所の園内掲示板を活用し、近隣町会の掲示板利用も行ってきた。根っ子の会 HP に活動情報を掲載し、アクセス数:15,000 で、多くの方々に閲覧いただいている。

<協働事業の評価>緑の都市賞で松戸市が「国土交通大臣賞」を受賞し、根っ子の会は協働事業の成果が評価され市長から感謝状をいただいた。千葉県の協働事業事例集に掲載され、「協働事例講座で活動の発表」を行った。IFPRAの公園グッドプラクティスで高く評価されており、都市の緑や公園の発展に貢献している事例で、韓国や香港での世界大会で高い関心が寄せられている。

各種のイベント開催によって、子どもからお年寄りまでが「豊かな自然」や「古来の歴史」を楽しめる場となることで、幅広い年齢層に利用してもらえるように協働事業の活動を推進している。

【協働事業者紹介】

2006 年 7 月に「根木内歴史公園ボランティア体験講座」の受講生で<根っ子の会>を組織し、公園ボランティア活動を開始。会員数:30 名で協働活動を継続することにより、今後も来園の皆さんに楽しんでもらえる公園づくりに努めます。

代表: 森 恭二 松戸市根木内 192-5 TEL342-4798 URL: <http://negiuchi-park.org/>

協働事業

ユースボランティア育成を通じた 子ども会・子ども地域活動の 担い手支援モデル事業	協働事業者	NPO 法人こばていー子ども参画イ ニシアティブ
	事業担当課	青少年課

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

＜課題＞松戸市内では、子どもの地域活動の担い手が不足し、子ども会活動など地域活動が停滞しています。子どもたちにとって、親・先生以外の人と出会う場が行動範囲としての「地域」に求められているにもかかわらず、ある程度交流している人の割合は4割程度にとどまっています。また、市内子ども会の加入率は年々低下、平成20年度では25%を割っています。この低下の原因として、子ども会の役員になった場合の負担と、子どもの体験の質・量とのバランスが、保護者にとって年々つりあわなくなっているのではないかと推測され、地域活動を体験している子ども・担い手となる大人の両方とも減少しています。

＜取組＞本事業では、子どもたちが気軽に行ける行動範囲にある、年齢の離れた子ども同士・子ども若者の交流の場である子ども会に改めて着目し、10代後半から20代を目安とした若者をユースボランティアとして育成、地域活動の担い手となることを軸に、下記の取り組みを実施しました。

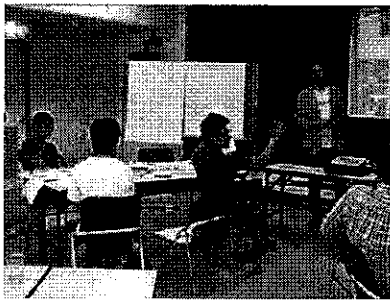
- ユースへのボランティア育成プログラム／座学＋ワークショップ＋あそびの実践×2
- ユースボランティアとレクリエーションブックを作成
- 単位子ども会へ、アンケート・ヒアリングを通じた課題把握
- 子ども会との共同企画の実施

事業費	225,919 円
自己資金	22,592 円
(労力換算額)	206,000 円
負担金	203,327 円

平成22年度事業の成果

本事業をモデル事業として、新たな取り組み・きっかけを用意することで、一部とはいえ地域での人間関係を再構築できました。特に、ボランティア講座という形での募集は、まったくこれまで子ども関連の活動をしたことがないユースボランティアの参加を実現しました(2期13名の参加)。また、子ども会と共にユースボランティアへ活動の場を提供できたことは、大きな協働事業の成果です。

一方、単位子ども会へのアンケートを青少年課の調整により110件あまり回収でき、分析できたことは、今後の松戸市内の子どもに関わる取り組みを展開する上で、非常に有意義だと言えます。



【協働事業者紹介】

NPO 法人こばていー子ども参画イニシアティブは、子どもたち自身の「やりたい」という想いを、主に10代・20代のユースと一緒に実現する場を、地域社会に築くべく活動しています。

協働事業に限らず、子ども会をはじめ、子どもたちと楽しいイベントを作りたい、企画アイデアに困っているなどあれば、是非ご連絡・ご相談ください。

《問合せ先》 office@copatee.net / 電話 047-386-1666 / FAX 386-1639 (担当：小熊)

市民活動助成事業

あなたのまちカラーウォッチング事業	団体名	景観色彩を考える会・まつど (1116の会)
-------------------	-----	---------------------------

【事業内容】

<p>平成22年度事業の取り組み</p> <p>1. 松戸市眺望景観ポイントのバスツアーの実施 (好色・騒色 ぐるりまつど景観バスツアー) 2010年7月17日(土) 実施 参加者/一般18名 メンバー6名 景観室1名 JCN コアラ葛飾 1名 計26名にて開催 (翌日以降コアラ TV 放映)</p> <p>2. わが街カラーウォッチングの実施(マブチモーター本社棟見学会) 2010年12月17日実施 参加者/一般7名 メンバー6名 計13名にて開催</p> <p>3. 今後を展望する勉強会の実施 (景観計画における色彩のあり方 松戸市役所 都市計画課) 2011年2月9日実施 参加者/一般7名 メンバー7名 計14名にて開催</p>	事業費	103,497 円
	自己資金	30,288 円
	助成金	73,209 円

<p>平成22年度事業の成果</p> <p>今期の事業は、下記の3本柱にて進めました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松戸市眺望景観ポイントのバスツアーの実施(7月) 2. わが街カラーウォッチングの実施(12月) 3. 今後を展望する勉強会の実施(2月) <p>開催内容と時期については、ほぼ計画通り進められました。また1のバスツアーについては、広報まつどの成果もあり、一般参加者18名が参加され、多くの方への景観への意識の啓発ができたと考えます。また、基本的な色彩のあり方を幅広く市民に発信することができました。引き続き ウォッチングやシュミレーション・勉強会の開催をすることで「色」を切り口にしたまちの色彩を見直す取り組みを実施して行きたいと考えます。</p>

【事業者紹介】

景観色彩を考える会・まつど(1116の会)
 事務局/〒270-2212 松戸市五香南2-3-5 ベン・デザインオフィス内
 TEL. 047-388-2471 FAX. 047-388-2472
 E-mail ben@ben.name

市民活動助成事業

医療セミナー事業	団体名	Team りぼん
-----------------	-----	----------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

・「人と医療を結ぶ」をテーマにセミナー等を開催し、市民の皆さんに向けて病気や医療の正しい知識を提供し、広める。

・セミナーを利用し、がん検診の検診率の向上に貢献する。

上記項目を目的とし、年2回医療セミナーを開催、またイベントに検診車を設置するよう努力する。

事業費	114,695円
自己資金	14,695円
助成金	100,000円

【実施スケジュール】

・平成22年度 1回目セミナー（平成22年6月） テーマ「がんを食生活から考える！！」

【場 所】森のホール21 大会議室 【時 間】14:00～15:30

【講 師】済陽高穂氏 【参加費】100円 ※マンモグラフィー車も設置。

・平成22年度 2回目セミナー（平成23年3月） テーマ「子宮頸がんをよく知ろう！」

【場 所】森のホール21 大会議室 【時 間】14:00～15:30

【講 師】佐々木寛氏 【参加費】100円

・平成22年10月3日 「第37回 松戸まつり」 マンモグラフィー車の設置・検診の実施。

平成22年度事業の成果

・平成22年6月12日 テーマ「がんを食生活から考える！！」

参加者：96名 検診者：8名

・平成23年3月12日 テーマ「子宮頸がんをよく知ろう！」

平成23年3月11日の東日本大震災により中止。

・平成22年10月3日 「第37回 松戸まつり」

マンモグラフィー車を設置し検診を実施。検診者：36名

会場の定員数の関係で、セミナーの参加人数の目標100名には達しなかったものの、多くの方にご参加頂き、当初の目的である「医療の正しい知識を提供し、広める」ことは達成されたと思います。

また、今回初の試みである「松戸まつり」での検診車設置については、思いのほかたくさんの方に受診して頂き、これから先活動していく為の貴重なデータを得られたのではないかと考えております。

【事業者紹介】

私たちが想像している以上に、多くの人達が病気や医療について正しい理解をされていないように感じます。TVやインターネットで容易に情報を取得できる時代でありながら何故でしょうか？それは情報をただ見ているだけ、読み流しているだけだからと考えます。それでは人の心に残らないのも無理なことでしょう。やはり実際に行動して自分から獲得した情報の記憶には適いません。そんなことから私達は、出来るだけ最新の情報提供し、自分自身でその必要性に気づきを得て欲しくてこの団体を設立しました。今後も医療セミナーや検診車設置等を通じて情報提供や検診率向上に努めて参ります。

【Team りぼん】

松戸市上本郷1424-58 代表 富永 桂明

TEL: 080-1310-1796 E-mail: team_ribbon@yahoo.co.jp

市民活動助成事業

外出困難者と共に風の中へ	団体名	特定非営利活動法人さわやか福祉の会 松戸くらしの助っ人
--------------	-----	-----------------------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	263,072 円
自己資金	163,072 円
助成金	100,000 円

- ・ 協力者による車椅子操作習熟の機会として企画
- ・ 高齢者の増加や障害者の中で車椅子の生活等で、外出する機会を得られない人が増加しています。車椅子で遠出することない人達と共に、リフト付大型バスで屋外に行き、風に吹かれてみようという計画です。
- ・ 外出困難な方達がどのような思いを持ち協力者はどう接すれば良いのか、体験しながら習得しよう！

平成22年度事業の成果

- ・ 車いすを初めて触った人が、やってみてここが不便・不都合を知り こんな事にあんな事に気を付けようという事が分かって良かった。
- ・ この1年の1回をどれ程楽しみにしているかという事を話をして下さり「今度こんな旅行がしたいね」とリクエストまで出ました。
- ・ 家族の方から申し訳ないが一日すっかり開放され嬉しかったという声を聞きました。

【事業者紹介】

“お仕着せだなく お金もうけでなく お互い様の気持ちで”を理念に後ろ盾もなく15年間助け合いだけの活動をしてきました。

《問合せ先》 松戸くらしの助っ人 代表 松下明子 TEL047-340-3314

市民活動助成事業

芸術による認知症予防 及び 進行抑制の為の事業と、子どもの豊かな感性を育む為の事業	団体名	クリニカルアートをひろげる会
---	-----	-----------------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

高齢者施設での活動

- ・毎月1回、市内の有料老人ホームで、入居者向けに臨床美術(クリニカルアート)を実施。

事業費	270,500円
自己資金	170,500円
助成金	100,000円

公共施設等で行う活動(認知症予防・進行抑制の為の取り組み)

- ・松戸駅周辺の公共施設において、毎月1回(第2土曜日)会員向けの例会を行い、アート制作のワークショップを実施。
- ・市内の診療所会議室にて毎月1回(第3木曜日)会員向けの例会を行い、アート制作のワークショップを実施。(5月より開始)
- ・どちらの例会でも同月は同じ作品を制作。より多くの方に臨床美術を体験いただけるよう、会員だけでなく会員外の方も体験参加を可能として実施した。

その他の活動

- ・市内の子どもの為のボランティア団体の例会に参加して、子ども達に臨床美術を実施。
- ・夏休みに子供向けのワークショップ『かぼちゃの立体工作』を実施(会場・ゆうまつど)。
- ・松戸アートラインプロジェクト 市民フェスタ in クリスマスに参加し、事業参加者の作品を発表する機会とした。

平成22年度事業の成果

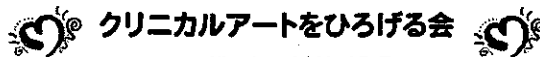


- 松戸市の広報を通じて参加をよびかけられた事や、助成事業である事から、多くの方から関心をよせていただく事が出来た。問い合わせも多く頂き、臨床美術(クリニカルアート)の説明をする機会を得られた。『独自のアートカリキュラムにそって創作活動を行うことで、認知症の症状改善を目的として開発された臨床美術(クリニカルアート)』を、体験する事でその良さを実感していただけた。
- 参加した方からの口コミで参加を希望する方もあった。結果的に申請時に会員総数が14名だった会が、3月末では60名以上となった。松戸市内、及び隣接する市川市内においても、ある程度、知っていただくことができた。
- 毎月定期(第2土曜日、第3木曜日)に臨床美術(クリニカルアート)を体験できる場を設ける事が出来た。第3木曜日の会場においては、使用料無償で提供いただいた。会場費が無償である事で、経費も抑えられ、活動が安定して継続できる見通しがついた。

【事業者紹介】

- 高齢者の認知症予防や認知症進行抑制の為のアート制作をはじめ、子どもや一般成人の為のワークショップも行なっています。
- 安全性を重視しつつ、プロの美術家が用いる良質な画材を使用しています。
- 専門的な技をふんだんに取り入れつつも、どなたでも楽しめるような制作方法を提供し、本格的なアート作品を制作します。

《問合せ先》



クリニカルアートをひろげる会

代表 村井 眞理

(2009年8月設立)

事務所 〒270-2222 松戸市高塚新田123-2 2-2-104
 携帯 090-8859-1654
 e-mail spzz7b89@swan.ocn.ne.jp
 H P http://www.project-s.net/clinical-art/
 ブログ http://blog.livedoor.jp/clinicalart/

市民活動助成事業

<p align="center">子育ての根っこを育てよう！ 親子広場「風の子ルーム」事業</p>	<p align="center">団体名</p>	<p align="center">NPO 法人 風の子サークル</p>
---	---------------------------	--------------------------------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	100,464円
自己資金	18,800円
助成金	81,664円

【目的】

ひろばへの一步を踏み出した親子に、さらに子育てに係わる喜び、不安や悩みなどを共感しあえる仲間作りや「子どもがいるからこそ」という前向きな視点から周りに働きかけ、活動できる一步が踏み出せるように、同じ年齢の親子が定期的に集う会を開催しました。

【スケジュール】

概ね1、2歳児対象「あひるクラブ」月に1回開催

概ね3歳児対象「こぶたクラブ」月に1回開催

【内容】

- ・わらべうたで人と人のかかわりを学ぶ、生きていく力を育む
- ・年齢に応じた、簡単工作、自然とのふれあい遊び(夏の水あそび、秋のどんぐりひろい)など
- ・講座 「絵本講座」「リトミック」

参加者が自然に親しくなれるように、毎回、わらべうたや遊びうたを取り入れ、子育てのお話をからめながら、生きていく力を育むわらべ歌や遊び歌を紹介しました。たとえば、1、2歳児クラスでは母親がわらべうたを歌いながら手や目を合わせたり、体をなでたり抱きしめたりすることで、さりげなく愛情を伝え、遊びの中から信頼関係がはぐくまれます。また、3歳児クラスでは、わらべうたを歌い集団で遊ぶことで、友だちとのかかわりが始まります。1人で耐えたり、目的のためにやりとりをするなど、わらべうたの遊びの中には生きていく力となるヒントがたくさんあることを遊びながら伝えました。また、参加者がクラブ終了後にひろばに集い、ひろば利用者とともにママ企画「夏祭り」の準備を重ね、ママたちのアイデアがたくさん詰まった楽しい夏祭りが開催されました。

平成22年度事業の成果

同年齢の親子同士でわらべうたを中心に一緒に遊んだが、回を重ねるごとに仲間同士のつながりもでき、こどもたちは積極的にプログラムに参加するようになり、母親間では日頃の子どもとの生活などについて語り合う場面もみられました。毎回ほぼ同じ少数のメンバーで集まることで自分の子どもや子育てについて再認識できる、新たな人間関係を築く一歩となったと思います。また、講師からはわらべうたを通した子育てや子ども同士の関わり合いを体験とお話し頂き、遊びを体験することで子育てのベースを学ぶことが出来ました。参加者の子育てに対する希望が開けたと思います。



【事業者紹介】

NPO 法人 風の子サークル

平成元年に育児サークルとして西馬橋地区に発足。以来、サークルで培った子育て、親子遊びなどのノウハウを、サークル以外の親子、子育て支援関係者にも、様々なかたちで広く発信し続け、平成20年にNPO法人になりました。スタッフのほとんどはこの育児サークルでわが子を育てたお母さん達です。

「親子広場 風の子ルーム」は、新松戸子育て協議会の事業として3年になりました。

《問合せ先》080-1390-4310 (月～金 10時～18時) <http://kazenoko-circle.com>

市民活動助成事業

小浜屋敷の森 保全育成事業	団体名	松戸里やま応援団「小浜の森の会」
---------------	-----	------------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	116,857円
自己資金	16,857円
助成金	100,000円

- 1) 樹林内の投棄ゴミ・埋蔵ゴミの収集・処理を継続して行なった。
- 2) 散策路および作業のための運搬路の整備にあわせ、危険な枯れ木・倒木・不要木を処理・整理した。
- 3) テングス病に侵されたマダケを伐採し、広場・物置など活動拠点を整備した。
- 4) 小浜屋敷の森の特性を知るため、森の測量および樹木・草花の植生調査を実施した。
- 5) 森の西側市道沿いの一部(2m×50mほど)の竹の根を伐開し、植栽ゾーンとして花や実のなる樹木を植栽した。
- 6) 広報掲示板(2基)を設置。活動記録を継続的に掲示し、近隣住居者はじめここを訪れる人に活動の内容・状況を知ってもらう広報活動を行った。
- 7) 「救命救急講座」「刈払い機実務講座」「ステップアップ講座」などを受講。また講師を招いて「森づくり研修会」を開催し、森の保全活動の技術面・知識面のスキルアップを図った。
- 8) 子供たちにも安心して来てもらえる森づくりを目指し、整備を継続している。

平成22年度事業の成果

- 1) 作業用具の調達とともに整備活動の効率も良くなり、年度計画はほぼ達成した。
- 2) 新規の投棄ゴミが少なくなった。
- 3) 活動拠点としての広場が確保できた。
- 4) 「松戸のみどり再発見ツアー」「ふるさと森の会・視察会」を受入れた。また「松戸アートライン」に出展の学生に協力できた。
- 5) 植栽ゾーンの設置により景観も変わり、会員だけでなく近隣住民やグラウンド利用者にも季節を楽しんでもらえるようになる。
- 6) 測量・植生調査から「小浜屋敷の森 樹木配置図」ができた。森づくりの資料とする。
- 7) 活動の最中に、グラウンド利用者・近隣の方から挨拶・お礼の言葉をいただき、励みにしている。

【事業者紹介】

松戸里やま応援団「小浜の森の会」は、松戸市における「里やまボランティア入門講座2008」を受講した13名(男性10名・女性3名)で、2009年4月に立ち上げ3年目を迎えました。この間、活動に賛同して新規に3名の方が入会してくれました。子供たちはじめ一般の方々を迎え、一緒になって里やまの四季の観察や木工細工などを楽しめる場所にと、整備・保全を行なっています。

フィールド住所は、松戸市高塚新田93-1。活動日は毎月第2金曜日と第4木曜日の月2回。

10時～13時を基本として活動しています。体験参加も歓迎しています。ご連絡ください。

《問合せ先》 松戸里やま応援団「小浜の森の会」

事務局/担当 松田 電話・ファックス：047-365-0428

市民活動助成事業

<p>Ｊキッズ子どもまつり事業</p>	<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド</p>
---------------------	------------	---------------------------------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	107,027	円
自己資金	17,027	円
助成金	90,000	円

実施日：平成22年7月3日(土) 10:00~13:00

実施内容：Jキッズの子ども達が考えたゲームや模擬店を開催した。

実施目的：地域の子ども会がなくなってきている昨今、子ども達には地域の方との交流や、世代間の交流が少なくなってきている。この子どもまつりにおいて、地域間交流・世代間交流の場を提供し、地域の活性化と子ども達の健全な育成に貢献する。また、子ども達にとって、自分で考え、作り上げ、提供する過程を経る事で、さらなる自主性・積極性の育成につながる。



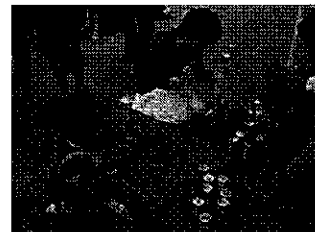
平成22年度事業の成果

目標受益者人数 100名を達成した。(108名)

地域の方や、中高大学生のボランティア参加があり、活性化した。

異年齢交流・世代間交流が出来た。乳幼児から高齢者まで幅広い参加があり、特にお父さん世代が活躍する場を提供出来た。

小学校4校へのアピール・チラシ配りを行えた。



【事業者紹介】

Jキッズは、ボランティア活動を通し、子どもたちの思いやり・自主性を育てることを目標として活動しています。「自分で考え、自分でやる！」を合言葉に、月3回土曜日に行っています。

《問合せ先》 特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド
Jキッズ

住所：松戸市新松戸 4-257-1 ニューホームズ 第1マンション 1階

電話：047-344-0544 (SRCビル内)

090-3575-7939(野中) / 080-1059-5344(山岸)



市民活動助成事業

生活に役立つ「暮らしとお金」の セミナーと相談会事業	団体名	松戸生活やくだちたい
-------------------------------	-----	------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

人生80歳超の時代、「長生きを前提にした生活設計」が必要不可欠ですが、社会制度が充実する一方で年金・医療・介護の費用や給付は複雑となり、生活設計が難しくなってきました。

「松戸生活やくだちたい」は、生活に夢と目標を持ち、「暮らしとお金」の設計の知識と手段が必要な人に、「日常の家計管理」を切り口としてセミナー&相談会の開催に取り組むことにしました。

主なテーマとしては、住宅ローンなどを含めた資産・負債管理、老後の生活設計、年金・仕事と生活のバランス、病気・事故に備えた医療・保険、相続等についてセミナー&相談会を予定しました。

これらの啓発活動が松戸市民の夢と目標の実現に“やくだつ”ことを期待しています。

事業費	130,746円
自己資金	30,746円
助成金	100,000円

平成22年度事業の成果

- 1) セミナー・相談会を3回実施し、目標60人に対して広報活動を幅広く展開することで110人の参加を得ました。また、松戸市協働事業である“やよい会”からの依頼で出前講座「高齢者の暮らしとお金」を40名の参加で実施しました。
- 2) 事業費予算244千円に対して、無料掲載紙の積極的な活用や、自からの足で広範囲にポスティングするなどにより、主に広告費用の節減に努めた結果、最終事業費は131千円となり、費用対効果を向上させることが出来ました。
- 3) 参加者は、市内96名 市外14名、男43人 女67人、年齢20代～70代 平均58才、松戸市内全域から幅広く参加いただきました。
- 4) 評価4.4 ※評価(5:大変参考になった 4:参考になった 2:あまり参考にならなかった 1:参考にならなかった)
- 5) 相談会は 相続6名、保険1名 でした。相談会の充実が平成23年度の課題です。

<活動の評価>

- ① 参加者アンケートから、自己解決能力の向上に役立っていると思われます。
- ② 回を重ねる毎にリピータが増加し認知度もあがりつつあると思われます
- ① 特定の商品を進めることはなく中立的立場を引き続き確保できていると確信します

事業者紹介】

松戸生活やくだちたいは

松戸市で活躍するFP（ファイナンシャル・プランナー）が、自分達の知識・経験・技能を生かし、少しでも松戸市民のお役に立ちたいとの思いから平成21年に集まった10人のグループです。

連絡先 tel&fax 047-341-3021 松戸生活やくだちたい 代表 広瀬 高志

e-mail msyakudachitai@xmail.plala.or.jp

ホームページ <http://www7.plala.or.jp/MSYakudachitai/>

Google

市民活動助成事業

<p>たすけあい・よろず相談員制度 の必要性調査事業</p>	<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 たすけあいの会 ふれあいネットまつど</p>
------------------------------------	------------	---

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

1 調査事業の推進

(1) 調査目的

- ・高齢独居者・認知症者・重度障害者等の「判断力・理解力不足の人」の方々が「自分一人で判断・処理出来ない人に対して、行政手続き等のサポートや福祉・医療の相談にのる事が出来る（総合的なたすけあい・よろず相談員）の制度が必要とされる事」を調査する。
- ・縦割り行政に即したバラバラな相談体制から窓口を一本化する事による社会コスト削減の可能性調査

(2) 調査の実施 : 以下の調査データはURL<http://www.k5.dion.ne.jp/~fnm2011/>を参照

	調査の対象	対象数(回収数/総数)	調査方法
1	NPO法人 たすけあいの会ふれあいねっとまつどの会員	47/18	郵送方式にて
2	NPO法人宅配給食 すずな	38/92	アンケート実施
3	コンサート会(*)	45/120	対面方式で
4	市民講座(*)	103/150	アンケート実施
	合計	233/520	

(3) 基礎調査データ

1	年齢構成	20歳～50歳代 34 (15%)	60歳代～80歳代 199 (85%)
2	困り事相談内容	病気・医療 98 (28%)	介護の事 78 (23%) 家事の事 44 (13%)
3	主な相談相手	家族 80 (28%)	病気・診療所 39 (14%) 友人 32 (11%)

●平成22年度事業の成果

- (1) たすけあい・よろず相談員の必要性の確信を得た。(アンケートに依るコメント記述の一部)
- ・行政関連(相談窓口)は、バラバラであり、此れの本一化が望ましい。
 - ・役所にも「相談課」があると良い。
 - ・色々な支援センターが存在するも、まずは「何でもワンストップ」で相談(受付)出来る電話センターを明確にして欲しい。
 - ・相談先が解らない。
- (2) 事業展開を目指したモデル事業の推進が出来そうだ!!
- (3) 超高齢化社会の中で独居高齢者や家族・近隣組織(自治会)等の、絆の構築を図れるコミュニティ組織の立ち上げ、推進の可能性がみえた。

<p>【事業者紹介】 基本理念:「困った時はお互いさま」を基本に、ハンディキャップの有る無しにかかわらず、人と人がたすけあい、支え合う、ふれあい溢れる地域社会をめざす。</p> <p>主な活動: 1 たすけあい活動(移動サービス-福祉有償運送、生活援助サービス、施設サービス) 2 施設ボランティア活動</p> <p>3 制度サービス(介護保険・居宅介護、訪問介護、障害福祉サービス介護)</p> <p>《問合せ先》 TEL: 047-346-0866 FAX: 047-346-2068</p> <p>E-Mail fnm2011@r4.dion.ne.jp/</p> <p>URL http://www.k5.dion.ne.jp/~fnm2011/</p>
--

市民活動助成事業

手作り甲冑普及事業	団体名	松戸手作り甲冑愛好会
-----------	-----	------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	329,957円
自己資金	229,957円
助成金	100,000円

平成22年度は、「手作り甲冑愛好会」としての実質的な活動の初年度として、以下のような取り組みを行ってきた。

1. 手作り甲冑講習会の開催

- ・平成22年3月15日の「広報まつど」を通じて、講習会の受講者を募集。
- ・応募があった5人と、昨年兜だけを作り今回鎧の制作を行う2人の計7人を対象に、4月8日から講習会を開始。
- ・9月までに延べ20回開催し兜・鎧を完成させた。

2. 手作り甲冑のPR等

- ・5月3日及び11月6、10日の3回にわたり、戸定が丘歴史公園内の松雲亭において、手作り甲冑やイベント参加時の写真等を展示した喫茶「カフェ甲冑」を催し、手作り甲冑のPRを行った。

3. 松戸市のイベントへの参加

- ・10月2、3日に行われた松戸まつりへ「甲冑武者行列」として参加したほか、10月22日に戸定が丘歴史公園内で開催された戸定スペシャルアートプロジェクト2010・ウィーンピアノ四重奏団へ甲冑武者として参加するなど、多くの人に楽しんでもらった。

平成22年度事業の成果

- ・平成22年度事業への取り組みに記載したとおり、講習会の開催や各種イベントへの参加などにより、手作り甲冑の普及と松戸市の観光への寄与についてはある程度実現出来たのではないかと考えている。

【事業者紹介】

「松戸手作り甲冑愛好会」は、楽しく甲冑を手作りすることを通じて手作り甲冑の普及を図るとともに、松戸市の各種イベントに甲冑行列などで参加できるようにすることにより、松戸市の観光に役立てることを目的として平成21年8月に設立した。

平成22年度、23年度と手作り甲冑講習会の実施などを行ってきたが、今後とも手作り甲冑の普及のため活動を続けていきたいと考えている。

《問合せ先》 会長 高橋 貴美子 電話 047-363-5058

市民活動助成事業

手と手で話そう事業	団体名	NPO法人子どもっとまつど
-----------	-----	---------------

【事業内容】

<p>平成22年度事業の取り組み</p> <p>I 「手と手で話そう」ワークショップの開催。 2010年7月11日ふれあい22。 講師デフパペットシアター・ひとみ善岡氏。参加者22人。 音のない世界の中で「思いを伝え受け取る」ためには、相手の動きや表情をよく見ることが大切であることを学んだ。</p> <p>II 「夏休み手話教室」2回開催。 2010年8月19, 26日ふれあい22。講師松戸市ろうあ協会の関内氏。参加者各回6人 コミュニケーションの手段は「手話」だけではないことや聴覚障がい者の生活（困ったこと）を学んだ。</p> <p>III 「手話で唄おう」発表を市内4か所のイベント会場で実施。 「手話で唄おう」の発表の準備及び当日に向けて延べ子ども82人、大人32人の参加があった。会場に訪れた人々に共感をもって受け止められた。 視覚障害者とのコラボレーションもあり子どもと障害者の交流が深まる事業であった。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>118,675 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>18,675 円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000 円</td> </tr> </table>	事業費	118,675 円	自己資金	18,675 円	助成金	100,000 円
事業費	118,675 円						
自己資金	18,675 円						
助成金	100,000 円						

平成22年度事業の成果

講座に参加した子どもたち自らが「耳の聞こえない人と話をしたい」という思いにつながり、「手話で唄おう」という表現のカタチにして、市内4か所のイベント会場で発表した。発表では聴覚障がい者への理解を深めるためのメッセージを残すよう心がけた。

来場者から「あなたの話を聞いて耳の聞こえない人の気持ちがよくわかった。涙が出そうになった。感動した」と声をかけられた。

子ども5人でスタートした会への参加者が発表をするごとに増えていき現在9人で活動している。また、親の支援もあり今後の活動へもつながっている。

視覚障がい者の演奏家（伴奏者）の協力も得られ子どもたちと障がい者の交流が自然に行われるようになってきた。

ワークショップ、手話教室への参加者が少なかったが聴覚障がい者との関係の扉となった大きな事業であった。また、子どもと障がい者との架け橋となり、広がり期待できる事業であった。

【事業者紹介】

子どもは、感動する体験や、豊かな自然体験や、地域社会の中での、さまざまな人とのふれあいのなかでこそ、心豊かに育つものと考えます。豊かな子ども時代を子どもと大人と一緒にあってつくっていきます。

- 子育てをたのしもう!・・・おやこの広場るーぶる・子育て広場・こどもっと
- 鑑賞+ワークショップ・・・てんじん劇場・人形劇の公演・落語の口演など多数
- 自然体験・ものづくり体験・・・陶芸教室・自然創作アート体験教室など
- 多世代交流・みんなで子育て・・・三世代交流「まちなか劇場」

〒270-2261 松戸市常盤平2-9-5 長谷川ビル301 (月・水・金10:00~16:00)
TEL/FAX : 047-386-9154 npo-mk@cd.wakwak.com <http://kodomotto-matsudo.com> (渡辺)

市民活動助成事業

八ヶ崎の森再生整備事業	団体名	松戸里やま応援団 一起の会
-------------	-----	---------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

一起の会が整備してきた八ヶ崎の森は、平成20年末斜面林の大部分が伐倒されたが、当期市民活動助成事業の指定を受けて本格的に再生整備に取り組みました。

事業費	179,313円
自己資金	79,313円
助成金	100,000円

事業内容は、伐採された斜面林部分の復旧ではなく「地域住民に親しまれる森」へ再生していくことを目標に、①「土留め柵兼伐木枝木集積場」設置を軸に斜面の安定と景観を配慮した整備をした。

②「遊歩道設置」遊歩道コースに杭とロープを設置し、場内手入れや観察通路に活用。

③「植樹イベント」伐採前の常緑高木から、花や実をつける中低木の落葉樹木苗木を植樹することとし、土留め柵で三段に区分された斜面に住宅に近い下段に低木花木、中段に中低木を植樹し圧迫感を排し景観にも配慮した。

植樹祭を前に、地権者と近隣住宅を訪ね「再生整備計画」の理解と植樹祭参加をお願いした。10/31の第1回植樹祭は、雨天のなか市民24名の参加をいただき盛会であった。

平成22年度事業の成果

- ・破壊された森の再生を機に近隣住民や児童に身近な森を実現すべく、花木を中心に景観にも配慮した明るい森づくりをすすめています。
- ・森への関心と理解を高めるために市民に呼びかけた「植樹祭イベント」を10/31実施し、雨模様にもかかわらず市民24名の参加をいただいたのは第一弾としては成果と受け止めています。
- ・斜面の土留め兼伐木集積場づくりや植栽エリアの整備、遊歩道の設置など今夏の猛暑でツル性植物の繁茂に苦戦したがほぼ計画通りに進捗した。
- ・手探りの「植樹イベント」ではあったが、来期H23年度も引き続き市民活動助成を受けることになり今期の成果をさらに充実させ事業の完成をめざします。

【事業者紹介】

森林、竹林、里やまなどの整備、保全、活用に対するボランティア活動団体で、発足から7年、「八ヶ崎の森」と上本郷「カンスケ緑地」を中心に整備管理活動を展開して、3年前から年2回近隣児童を招き、自然観察や森のなかで遊ぶイベントを実施してきました。

現在、八ヶ崎の破壊された森を、「地域に根付く森」へ市民参加型の再生整備活動を展開しています。

《問合せ先》 連絡方法 電話番号 047-368-1272 代表者 高木 喜久雄

市民活動助成事業

バリア・バリアフリー体験教室・ まち探検推進事業	団体名	バリアフリーまつど市民会議
-----------------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み	事業費	135,913 円
	自己資金	35,913 円
	負担金	100,000 円
<p>I 『バリア・バリアフリー体験教室』実施 (バリアフリー啓発活動)</p> <p>II 『馬橋地区まち探検〈バリア・バリアフリーウォッチング〉』実施</p> <p>III 『やさしさいっぱいみんなのまち』アンケート実施</p> <p>IV 意見交換会『市民の願い・バリアフリーのまちづくりの課題は何か?』(リーダー養成)</p>		

平成22年度事業の成果

事業計画どおりに実施、当初の目標を達成できた。

- ・ 体験教室は、これまで延べ体験者数が2,000名を超え、リピーターも多く、この活動がある程度市民に浸透してきたものと思われる。
- ・ 馬橋地区まち探検は、レッツ体験の中学生をはじめ高校生、大学生の参加者も多く、地域住民の参加も多数あり、様々な立場でのウォッチングができた。また、今回は「喜楽家」と連携して電動車いす利用者の視点に立ったウォッチングを実施し、障害当事者の移動には欠かせない多目的トイレにも焦点を当てたチェックも行った。
- ・ 『やさしさいっぱいみんなのまち』アンケートは、教育現場や福祉関係者の声が多く集まり、内容の充実のための改定や今後の展開の参考になった。

【協働事業者紹介】

バリアフリーまつど市民会議は、2005年5月松戸市の『交通バリアフリー基本構想・実施計画』に基づき、市民と行政が協働でバリアフリー化を促進するために結成されました。

ウォッチングや体験教室などの活動をとおして『バリアのないまちづくり』の大切さや必要性を広く啓発しています。

《問合せ先》 代 表 元山幹雄 ☎&fax 047-345-8215
 事務局長 室谷 勉 ☎&fax 047-385-6437
 E-mail 瀧 宏 rakusui@muse.ocn.ne.jp

《問合せ先》 (連絡方法(電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

市民活動助成事業

まちづくりコラボサロン	団体名	まつどサロンネットワーク
-------------	-----	--------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

事業費	152,000	円
自己資金	52,000	円
助成金	100,000	円

①定期的な会議の開催 サロンの開催は14回開催している。うちゲストスピーカーを招いてのサロンは2回。社会貢献や市民活動について考える機会になった。

②イベントの開催

立ち上げイベントとして田中優さんを講師に呼んで、「発想の転換」をいろんな活動のヒントにしてもらうような内容で講演会を行った。50人以上の集客があった。また夏やすみにはシニアと子どもの交流をねらいとしたイベントも開催。150人が参加・来場。新米ママのための講座なども開催した。

③会員への広報

会員には会議の進捗状況、定期的に NEWS LETTER としてメールで一斉配信した

④情報のネットワーク化

会員から集めたアンケート、この1年のイベント内容、全く活動等に関係のない人が読んで興味を持てるような内容にして、会員から手渡しや市民センターに配布をする予定。

平成22年度事業の成果

①生活面での多様な課題を抱えている人がサロンには参加してくれて、そのサロンの中で情報を交換している場面は何度もあった。(子育ての悩み、介護の経験、健康上の問題などについて知りうる情報を交換し、自分の経験を話す、など)

②参加メンバーが中心となってイベントを企画実施してみたことによって、メンバーの親近感が増し、そのイベントの中で「何かをしたい」と言う人の想いを実現でき、つながりを作る活動の土台作りができた

③イベントの参加者から別のイベントへの参加要請があり、活躍の場が広がった。

④この1年でイベントやサロンでの交流を通して核となるメンバー約10人ができた。このメンバーたちを中心として課題の解決や活性化につながるような企画や運営の方法をも形作っていきたいと考えている。

【事業者紹介】

【団体名】 まつどサロンネットワーク

松戸に住んでいる私たち自身が、「こうあったらいいな」ということを実現するために活動を立ち上げたり、すでにある活動を広げていったりする、そのための出会いの場、交流の場にこのサロンがなったらいいなと考えています。真剣にまちがよくあってほしい、人のために何かしたいと考える人たちのネットワークが広がるための場です。

月2回程度、松戸周辺で不定期に開催しています。

【問い合わせ先】 090-9857-9158 桑田雅子

市民活動助成事業

まつどのアートな場所マップの制作事業	団体名	松風の会
--------------------	-----	------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

見つけたよ まちの審美眼

『まつど探索マップ アート版』を作る

事業費	145, 147 円
自己資金	45, 147 円
助成金	100, 000 円

人口48万の都市となった松戸市に、今一番必要なのは人と人の心のふれ合いです。団塊の世代がリタイヤし、ようやく松戸都民から松戸市民として多くの人々が自覚し始めました。この地に生涯すみつけていくために、まず身近な暮らしを豊かな文化の土壌にし、自ずとアートが生まれるような環境作りをしていくことが大切です。一昨年上野から始まる常磐線の芸大キャンパスラインの活性化を目指したJOBANアートライン協議会が設立され、今まで点であった文化拠点が結びつこうとしています。

また、市内には多くのアーティストが在住し、個人のギャラリーがあることがあまり知られていません。それらの存在を広く知ってもらうために、わかりやすく紹介することのできるマップが必要と考えました。

まつどにどれだけの宝が埋まっているのか、行政任せにせず、市民も参画した協働のまち作りを目指しながら、まちの魅力を再発見していきたいと取り組みました。

平成22年度事業の成果

- 6月 マップ掲載箇所の取材開始 矢切・松戸・稔台地域
- 7月 取材八柱・小金地域
デザイナーとの打ち合わせ
- 8月半ば 地域の文化発信についてアドバイザーから話しを聞く
- 9月～11月 掲載箇所の情報収集
- 12月 マップの原案制作
- 1月 掲載箇所の取材 東松戸地域
- 2月～3月 デザインの打ち合わせ（地震により作業が遅れる）
- 4月 入稿・印刷・完成（3000部）イベントや掲載店で配布開始

【事業者紹介】

松風の会は、2008年に松戸出身や松戸在住のアーティストが自らイベントを企画・実施し子育て中の若い世代や高齢者を含む市民全体が身近にアートを楽しむ機会を作りたいと結成しました。「暮らし」に根づいた文化活動を地域資源を活かして展開させたいと考えています。松戸で生まれた新しい表現活動を市内外に広く公開し、市民のふるさとへの誇りと潜在的な力を引き出していきたいと活動しています。

《問合せ先》 松風の会 松戸市串崎南町187 047-386-8888

市民活動助成事業

「もったいないツアー」事業	団体名	松戸市政モニター0B「花草会」
---------------	-----	-----------------

【事業内容】

平成22年度事業の取り組み

- 「もったいない運動」講演会の開催
 (講演会)——「もったいない運動」がわかる——
 『もったいない』講演会
 (講師) 戸田栄造氏(メイク松戸ビューティフル会長)、茂木久子氏(アースコンマツド理事:前事務局長)
 (開催場所) ゆうまつど(4階ホール)
 (実施) 平成22年7月20日(火)、参加者:52名

事業費	167,385円
自己資金	91,601円
助成金	75,784円

- 花草会の「もったいないツアー」の実施
 (ツアー内容)「もったいないツアー」(工場見学)
 (見学場所) 石井食品㈱、八千代工場(マイクロバス利用)
 (実施) 平成22年10月6日(水)、参加者:22名
- 「もったいない運動」を体験する講座の開催
 (講座内容)——「もったいない」がすぐ実践できる—— 『もったいない』講習会
 (講師) 後藤淳子氏(松戸市消費者の会 副会長)、中岡文恵氏(千葉県環境学習アドバイザー)
 (開催場所) 松戸市民会館(301会議室)
 (実施) 平成23年3月15日(火)、参加者:27名の予定
 3・11 東日本大震災のため、講習会は中止致しました

平成22年度事業の成果

「もったいない運動」を理念や考え方に留めるのではなく、実行可能な活動として展開する目的で、今年度の助成事業を実施した。

最初の「もったいない講演会」で身近な生活環境での実践例の話を聴き、多くの方が理念から実行可能なことが沢山あることを学んでもらえた。

次の見学会の実施は、石井食品㈱(八千代工場)に行き、実際に企業(工場)でのもったいないの実践現場を見てきた。食品素材の保管から製造加工、梱包に至る安全管理とムダの排除、その過程で出るゴミの再処理等、環境保全に関する「もったいない」を学んできた。見学会は大好評であった。

最後の「もったいない」を自分自身で行動してもらう予定で企画した講習会であったが、3月11日に発生した東日本大震災のため中止せざるを得ない状況となったのは残念である。

【事業者紹介】

昭和45年に開始された「松戸市政モニター制度」のモニター経験者が集って、昭和62年にOB会が発足しました。以来20年余、「会員相互の研修と親睦を図り、松戸市政の理解と協力を深めて地域の発展と住民福祉の向上に寄与する」(発足時の活動趣旨)ことを目的として活動しています。

昨年の20周年記念の総会で「もったいない運動の展開」を決定しました。その後、協賛団体に加盟して積極的に「もったいない運動を実践」すべく、今年度の助成金事業として実施するにいたっています。

(会員数:30名)

《問合せ先》 (電話:387-6773、FAX:387-7890、村田富子)

(平成23年度事業の取り組み)

協働事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
	事業担当課	
家庭生ごみ堆肥づくり事業	まつど生ごみ資源化の会	P.34
	環境業務課 環境計画課	
家庭用廃食油の回収による地域活性化事業	NPO法人松戸エコマネー「アウル」の会	P.35
	環境計画課 商工観光課	
ゲット ユア ドリーム事業	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会「ワールド	P.36
	子育て支援課	
市民と市職員がより良い関係を構築するための講座事業	まつど協働のまちづくり応援団	P.37
	協働推進課	
昔のあそびとわらべうた事業	昔のあそびと遊ぼう会	P.38
	六実支所	

市民活動助成事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
「AEDの正しい使用法を広めたい」事業	デフィブリーるの会	P.39
「宇宙の約束」上映と山元加津子氏講演会	まつど「1/4の奇跡」上映実行委員会	P.40
「紙敷石みやの森」-保全育成事業	松戸里やま応援団「七喜の会」	P.41
健康な心を育む勇気づけの対応	男女共同参画推進グループ ファミリーサポート 勇気づけ	P.42
五香、六実地区歴史再発見 事業	香実会	P.43
発達障害に関わる方々とご家族支援事業	Wing(ウイング)	P.44
福祉のまちづくり推進のためのシンポジウム・先進地見学 事業	バリアフリーまつど市民会議	P.45
不登校の理解を深める本の作成と配布事業	不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』	P.46
若者と協働の森づくり	松戸里やま応援団 三樹の会	P.47

協働事業

家庭生ごみ堆肥づくり事業	協働事業者	まつど生ごみ資源化の会
	事業担当課	環境業務課・環境計画課

【事業内容】

<p>平成23年度事業の取り組み</p> <p>現在、家庭から出される「生ごみ」は、「燃やせるごみ」として分別され、市内の焼却施設で焼却処理されています。</p> <p>「生ごみ」を資源化（リサイクル）することは、限りある資源の再利用に向けた取り組みとして重要と思います。</p> <p>この取り組みは、松戸市が目指している資源循環型社会の構築に向けた「ごみ処理基本計画」における3R施策（リデュース、リユース、リサイクル）を進めるために行動します。</p> <p>本事業の実施によって、適正な地域内で、市民が取り組める家庭生ごみの「堆肥化マニュアル」を提案します。</p>	事業費	212,000円
	自己資金	22,000円
	(労力換算額)	432,000円
	負担金	190,000円

平成23年度事業の目標

- (1) 事業協力10世帯にプラスチックケースと床材を配布します。
- (2) 家庭生ごみを定期的に収集します。
- (3) 作業場で発酵させて堆肥づくりをします。
- (4) 出来上がった完熟堆肥を用いて、野菜や花の栽培をします。

日程	具体的取り組み
4月～6月	堆肥づくりの準備作業
7月～9月	家庭生ごみの定期的収集と第一次、第二次発酵作業
10月～2月	完熟堆肥の完成と野菜や花の栽培
3月	上記作業の継続

【協働事業者紹介】

まつど生ごみ資源化の会は、資源循環型社会を迎え「生ごみは宝」の発想をもって、生ごみを資源化していくために、市民・行政・企業が何をすることが必要か、何が出来るかを学習し、他団体との交流をつうじて考えようと平成17年3月に設立されました。

現在、家庭生ごみの堆肥づくりと学習、学校給食の生ごみ資源化を働きかけていくことを中心に活動しています。

《問合せ先》 大森 啓安 電話&FAX：047-342-3938

協働事業

家庭用廃食油の回収による地域活性化事業	協働事業者 事業担当課 事業担当課	NPO 法人松戸エコマネーアウルの会 環境計画課 商工観光課
---------------------	-------------------------	--------------------------------------

事業内容

<p>平成 23 年度事業の取り組み</p> <p>現状では家庭用廃食油は燃えるゴミとして排出され、市内の焼却施設で処理されている。また地域コミュニティの場であった商店街は少子高齢化や大型店の進出により活力がなくなっています。</p> <p>一方 地域通貨「アウル」も会員相互の流通に限られ、地域への展開が不十分であります。そこで家庭用廃食油を回収して、BDF や 石鹼を作り、この事業に協力した市民にお礼として地域通貨「アウル」を配布し、この運動に賛同した協賛店で 50 アウルで 50 円の割引やサービスを受けられる循環システムを構築します。</p> <p>それとともに美しいまちづくり、安心、安全なまちづくりに活動しているボランティアにも、そのボランティア活動に対して「アウル」を配布して、ボランティア活動への感謝の気持ちと、やる気を引き起こし、協賛店で同じように割引やサービスを受けられるようにします。</p> <p>松戸市が提唱している「もったいない運動」の重点項目である廃食油のリサイクル事業と地域通貨「アウル」をドッキングして、市民の「もったいない運動」への関心を高め、環境意識の高揚を図る事が期待出来ます。</p> <p>このような活動を松戸市民に広く浸透させるには「アウル」の会だけでは限界があります。松戸市の関係課との協働事業として推進出来れば、一般市民、ボランティア団体、商店、商店街への PR 活動が容易になり信頼が得られます。</p> <p>また廃食油の回収が軌道に乗れば、松戸市が推進している減 CO2 活動にも寄与する事となります。なお協賛店に集まった「アウル」券は地域通貨として協賛店相互で利用できます。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>600,000 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>90,000 円</td> </tr> <tr> <td>(労力換算額)</td> <td>500,000 円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td>500,000 円</td> </tr> </table>	事業費	600,000 円	自己資金	90,000 円	(労力換算額)	500,000 円	負担金	500,000 円
事業費	600,000 円								
自己資金	90,000 円								
(労力換算額)	500,000 円								
負担金	500,000 円								

<p>平成 23 年度事業の目標</p> <p>21 年 7 月よりアウル事務局を回収拠点として活動してきたが、今年度松戸市内に 6ヶ所の回収拠点を新たに開設します。またこの回収拠点を中心にこの運動に賛同した協賛店をそれぞれ 10ヶ所以上獲得して、地域通貨「アウル」の利用が出来るようにします。</p> <p>23 年度末までに 2000L の家庭用廃食油を回収します。</p> <p>またスクールガード、公園、河川の清掃等の環境美化の協力ボランティア団体を、23 年度末には 6 団体を確保します。</p>
--

<p>[協働事業者紹介]</p> <p>15 年 1 月スタートし、16 年 6 月に NPO 法人格を取得しました。会員相互に「ありがとうがいたり来たり」を合言葉に会員相互のサービスのやりとりを行っています。平成 16 年には千葉県の受託事業としてサンロード商店街をモデルに商店街活性化事業を行いました。</p> <p>21 年 7 月より家庭用廃食油の回収事業を行っています。</p> <p>((問合せ先))</p> <p>松戸エコマネーアウルの会 事務局 電話&FAX 047-368-0980</p> <p>住所 松戸市稔台 7-7-13 (株)ダイエックス内</p> <p>E-mail : matsudoowl@s3.dion.ne.jp</p> <p>ホームページ : http://homepage2.nifty.com/matsudo-owl/</p>

協働事業

ゲット ユア ドリーム事業	協働事業者	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会Jワールド
	事業担当課	子育て支援課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

対象：中高生

目的：自分の将来について積極的・前向きな若者が増える。

方法：様々な職業や経歴を持った大人と交流の場を持つ。

《今の中高生の姿》

核家族化や少子化が進行し、学校以外での交流の場が減り、世代を超えて人々と出会い、様々な価値観に触れる機会がなくなってきている。自ら考え、発言する機会が不足し、メディアが提示する価値観に偏っている。その結果、自分の将来について積極的・前向きに考えられない若者が増え、「何かをしたい」という意欲を持った中高生が減少している。

《具体的活動》

*5月・7月・11月と3回ミニフォーラム・ワークショップを持つ。

多くの中高生に、様々な職業や経歴をもった大人と対等に話ができる交流の場を提供する事で、様々な価値観に触れ、実際に考え、発言する機会を持ち、視野を広げるきっかけにする。

また、現在法人が独自事業として行っている中高生の広場「ユースペース」の紹介を行い、利用者の増加を目指す。

*7月の新松戸まつりで音楽を通してPRを行う。

事業費	594,900円
自己資金	122,900円
	(労力換算額：540,000円)
負担金	472,000円



平成23年度事業の目標

*中学校高校の協力を得ると共にPR活動を行い、参加者50名を確保する。

*中高生が自ら考える体験を通して、自信を持ち、将来の進学や就職選択に希望を持つ。

*「ユースペース」に集まってくる中高生が増える（目標：平均10名/1日）

*法人の活動を地域の方々に知っていただき、理解者・支援者が増える。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人子どもの環境を守る会Jワールドが運営する広場「ユースペース」はユース(Youth)のペース(Pace)でユー(You)のスペース(Space)を見つけ、ユー(You)のペース(Pace)で過ごす場所。平日夕方になると中高生が「ただいまー」と集まってくる。宿題や将棋、楽器の練習など、自由に過ごしている。様々な世代と一緒に夕食を食べる「さっちゃん食堂」があり、大家族のように過ごす。彼らの話にゆっくり耳を傾け、いろいろな相談にも乗っている。

夏には、「里山草刈り応援隊」として香取市にボランティア活動を行い、自然体験も実施している。

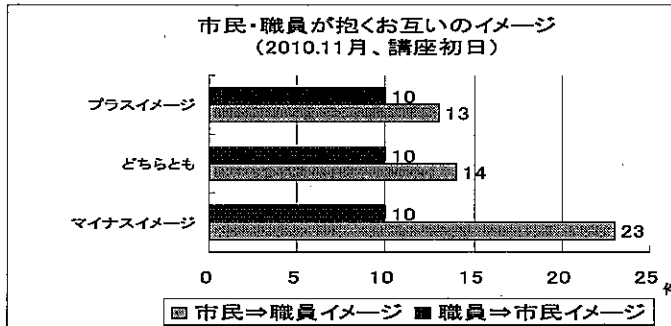
《問合せ先》 特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会Jワールド
 住所：松戸市新松戸4-257-1 ニューホーム第一マンション1階
 電話：047-344-0544 (SRCビル内) 担当 松本

協働事業

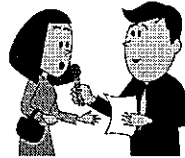
市民と市職員がより良い関係を構築するための講座事業	協働事業者	まつど協働のまちづくり応援団
	事業担当課	協働推進課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み



事業費	175,000円
自己資金	23,500円
(労力換算額)	222,000円
負担金	151,500円



(市民が市職員に抱くイメージ)

- 前例にとらわれていて、何も進まない
- 臨機応変、応用力に乏しい
- 担当課から外れると拒否
- 市民の隠れた期待に気づいていない
- 硬いイメージである

(市職員が市民に抱くイメージ)

- 地域のことにあまり関心がない
- 行政に対して不満を持っている人が多い
- 行政に頼りすぎているところがある
- 敵対意識があるのでは、と思う
- 親しみを持って話せない、壁を感じる

(「市民と職員で奏でるハーモニー講座(初日)のアンケート調査」, 松戸市, 2010.11)

「まつど協働のまちづくり応援団」と「協働推進課」は、市民と市職員のお互いが持つマイナスイメージを取り払い、地域の様々な問題を協力・連携して解決していくために必要な信頼関係を構築するための「場づくり」を演出します！！

- ◆今年度は、3回講座を3期開催する予定です。(7月、10月、1月を予定)
- ※詳細は、広報まつど等でお知らせします。



(ハーモニー講座での様子, 松戸市, 2011)

皆様のご参加お待ちしております！！

平成23年度事業の目標

- 1 できるだけ様々な立場の人たちに参加してもらい、交流を促進できるようにします。
- 2 地域課題の共有や相手への理解を通して、協力・連携した取り組みのタネやアイデアを掘り起こします。
- 3 講座終了後にアンケートを実施し、マイナスイメージよりもプラスイメージが多くなることを目指します。

【協働事業者紹介】

まつど協働のまちづくり応援団は、これまで市が推進している協働のまちづくりに賛同し、市と一緒に「協働イベント講座」や「チャリティーバザー」などを実施してきました。応援団のメンバーは、NPO関係者や青年会議所など、様々な立場で活動している主体が集まった組織です。多様な主体が集まるから実現できることがある。自分たちのまちを自分たちでつくる。そんな想いを一緒に実現していきましょう！！

関心のある方は、まつど協働のまちづくり応援団 会長 榎本孝芳 まで 電話 090-8946-9554

協働事業

昔のあそびとわらべうた事業	協働事業者	昔のあそびと遊ぼう会
	事業担当課	六実支所

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

核家族化の影響から親から子、子から孫へ遊びを教えられる人が少なくなってきました。また老人・青年・子供の世代にまたがりコミュニケーション手段がなく一緒に楽しめることが無くなってきています。

「昔の遊び・わらべうた」を広めることにより、親と子、孫との共通の話題作りを提供できるようになり、地域の世代間交流ができるようになります。さらに地域住民全体に輪を広げることにより地域活性化に寄与できるものと確信します。

事業内容及びスケジュール

- H23. 4 地域イベント参加(六実桜まつり)(けん玉 こま)
- H23. 5・7 けん玉 カブラ講習会(けん玉 カブラ)
- H23. 8 こま 講習会(こま ちょうがけごま)
- H23. 10 地域イベント参加(六実っ子まつり)(けん玉 カブラ他)
- H23. 12 こま講習会(こま ちょうがけごま)
- H24. 2 昔のあそび・わらべうたあそび大会(わらべうた けん玉 こま カブラ お手玉他)
- H24. 3 まつど市民活動サポートセンターにて見本市に参加
(わらべうた けん玉 こま カブラ あやとり お手玉 竹返し まりつき他)
- H24. 3 今年度の反省と次年度計画策定



事業費	335,000円
自己資金	81,200円
(労力換算額)	492,500円)
負担金	253,800円

平成23年度事業の目標

22年度は協働事業に挑戦の為PR用パンフ作成、用具の購入をした。幼稚園はじめ小学校へのPRをし、当会への理解を深めてもらうことができた。これを契機に広報まつどへ催事案内を出すようになった。23年度は六実支所との協働事業ができるようになり、5月より従来は毎月の催事定例会が第2月曜日であったが、子供達が休みの第1土曜日にし、子供、若い親達の参加を呼びこむことにした。催事用パンフを六実支所はじめ町会掲示板、回覧板にてPRしより多くの人の参加を図っていきたい、又会員増に力を入れていきたい。効果を把握するためにアンケートを実施する。

- ・H24年2月の「昔のあそび・わらべうた・わらべうたあそび大会」への参加者100人以上を目標
- ・指導員を増員する 現在17人→20人にする(平成24年3月末まで)

【協働事業者紹介】

ある小学校のお母さんから「松戸市には、わらべうたや昔の遊びを教えてくれる所がない」というお話を聞いて、平成17年に「昔のあそびと遊ぼう会」を立ち上げました。最初は年配の人たちで集まり「お手玉」「竹返し」「こままわし」「けん玉」「まりつき」「あやとり」「はねつき」など自分の得意とする技で皆と一緒に遊びました。そして先ずは自分で楽しむこと、それを人に伝えることが出来れば最高、「身も心も解放される豊かで楽しい時間です」現在では、会のメンバーと特技を持っている地域の賛同者と共に小学校の総合学習に年に数回参加させてもらっています。共に学ぶ中で、子供達からは若さをもらい、子供達は体験を通していろいろな人と係わることの楽しさや達成感を味わうことができるでしょう。「昔のあそび」「わらべうた」を通して、伝承されてきた自分の国の大切なものを少しでも多くの人たちが体験できれば幸いです。

連絡先 代表者 白石彌登美 047-387-1522
 定例会 毎月 第1土曜日 13:30-15:30(場所 六実市民センター)
 《問合せ先》 (連絡方法(電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

市民活動助成事業

「AEDの正しい使用法を広めたい」 事業	団体名	デフィブリーるの会
-------------------------	-----	-----------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み	事業費	300,000円
課題	自己資金	200,000円
	助成金	100,000円

- 救急救命時、救急車を呼ぶのと同じようにAEDを探してもらいたい。
 - 心肺停止の方に一般市民が抵抗感なくAEDを使用する状況を作り出したい。
- その為に・・・AEDに慣れて貰う機会をたくさん作ってゆきたい。
気軽にAEDに触れて、使ってみて、同時に心臓マッサージ法も体験する機会を設けていく。
- ① 市内小学校・PTAの皆さんに知って貰うため啓蒙・普及の場作りに取り組む。
 - ② 町会・団体の集会での啓蒙・普及の場作りに取り組む。
 - ③ イベント会場での体験の場作りに取り組む。
 - ④ 講演会、講習会の開催に取り組む。
 - ⑤ AEDの必要性、体験の必要性などの広報・PRに取り組む。

平成23年度事業の目標

- ① 小学校・PTAでの啓蒙の場を「家庭教育学級」とし、市内44小学校の家庭教育学級のカリキュラムに組み入れてもらい、年間12回程度実施したい。(4年で市内全小学校で実施を目標)
- ② 市内でのAED使用率を平成22年・2%弱から、5%程度まで向上させたい。
(平成22年度中に市内で、AEDが市民の手で持ち出された件数は15件でした。しかし実際に市民の手で使用されたのは3件と報告されています。)
この使用実態を、それぞれ倍の数値に向上させたいと考えます。

【事業者紹介】

平成14年10月10日 川口日出旺(現名誉会長)森のホールでコンサート中、心筋梗塞でたおれ、42分間の心肺停止。松戸市立病院で奇跡的に生還

平成16年7月 一般人のAED使用許可

平成16年10月15日 森のホールへ「AED」贈呈

平成16年10月29日 NHKでAEDの設置を進めるデフィブリーるの会を紹介

平成16年11月1日 デフィブリーるの会設立

平成17年11月 千葉県西部防災センターにAED贈呈

平成19年6月 松戸市校長会でAEDの設置促進を依頼

平成20年2月 全労済50周年記念式典で看護学校へのAED10台贈呈
 町会、イベント、PTAなどで体験講習会実施

《問合せ先》

住 所 ; 270-0021 千葉県松戸市小金原4-34-18
 ☎ ; 047-343-0808
 FAX ; 047-348-3876
 E-Mail ; saiatarm@ka7.koalanet.ne.jp
 Hp ; <http://defibrill.web.fc2.com/>
 連絡責任者 ; サイトウ マサヒロ 047-345-9703

市民活動助成事業

<p>「宇宙の約束」上映と 山元加津子氏講演会</p>	<p>団体名</p>	<p>まつど「1/4の奇跡」上映実行委員会</p>
---------------------------------	------------	---------------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

◆ 映画上映会・講演会 ◆

前年度に取り組んだドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」上映会で、命のつながり、生かされている喜びを、参加者と分かち合いました。

今年度は、前年度に培った人と人とのつながりを更に広げていくため、前年度上映した「1/4の奇跡」を再上映する他、この映画の第2弾となる「宇宙の奇跡」を上映し、また両映画の主人公である特別支援学校教諭の山元加津子氏からもお話を伺います。

1月7日～4月20日 映画上映会と講演会のための準備

4月20日 試写会「宇宙(そら)の約束」「1/4の奇跡」

4月24日 「宇宙(そら)の約束」「1/4の奇跡」上映会・山元加津子氏講演会

◆ 交流会・学習会 ◆

映画上映会後に交流会を設ける他、年間を通して地域の方々との交流会や学習会を設けます。

5月22日には、4月24日に参加した方々と感想を出し合ったり、意見交換したり、さらなる交流を深め、住み良い地域を作る為に話し合う場を設けます。

事業費	257,741円
自己資金	157,741円
助成金	100,000円

平成23年度事業の目標

いじめ、虐待、暴力、不和、自殺など、生きていることが辛い、楽しくないという方たちがいます。そういった方たちが救われ、生きていく活力や欲求を取り戻す地域作りをしていきたいと考えています。

隣近所・地域の交流・関わり合いが薄くなったことで、命の尊厳や「違いがあっても当たり前」ということが、頭ではわかっても肌感覚でわからなくなっているのではないかと考え、映画上映会や講演会、参加型・体験型研修会を設け、分かり易く他者理解、自己理解をすすめる場、人と人との繋がる場、機会を提供します。そして、安心して生きる地域作りを図っていきたいと考えています。延べ参加人数目標は、200人と考えています。

【事業者紹介】

私達のグループは、主に松戸市在住のメンバーから構成されています。映画上映会や参加型・体験型の研修会などを通し、分かりやすく、命の大切さ、不思議、尊さを感じる機会を作っていきます。

そして一人ひとりが、松戸市に住んでよかったと感じ、人と繋がり、楽しく地域社会を作っていこうとする人が増えることを趣旨として活動しています。

《問合せ先》 まつど「1/4の奇跡」上映実行委員会

代表：橋本裕子 (TEL・FAX) 047-348-7454 e-mail hashi01@ka3.koalanet.ne.jp

市民活動助成事業

紙敷石みやの森保全育成事業	団体名	松戸里やま応援団「七喜の会」
---------------	-----	----------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

はじめに

- ・松戸市に存在する樹林地は4%と非常に少なくなっています。
- ・私たち「紙敷石みやの森」には延宝4年に建立された石みや様が祀られ里山として大切に守られてきたことが判ります。
- ・樹林地の樹木は家屋や農具家具の用材、燃料など生活を営む上で貴重な役割をもっていました。
- ・私たち松戸里やま応援団七喜の会は残り少なくなった貴重な樹林地を「健康と癒しの森」として多くの市民が親しめる森として再生します。
- ・森は現代人が持つストレスの解消のほか、温暖化防止、火災延焼防止、崖崩れ防止など私たちを取り巻く問題解決の役割を持ちます。

事業費	124,002円
自己資金	24,002円
助成金	100,000円

活動内容

- ・定例活動日を設け活動する。毎月第一火曜日、第二木曜日、第四土曜日のほか臨時活動日。
- ・不法投棄され土に深く埋もれている家屋廃材などのゴミの掘り起こしと回収。(回収年2回)
- ・老朽や風雨により折れ倒れた樹木の整理、延びて市道側電線、街路灯に接触した幹枝の伐採を行う
- ・森の保全活動に対する市民への理解を深めるために、既に設置した「ゴミ不法投棄防止」「保全活動中」などの標識に加え、森の標識銘板〔案内板〕、活動情報掲字板の設置、パンフレットの作成広報を行う。
- ・24年春に開催を予定している「春の散策会」を目標に、散策路の整備、巣箱の設置、ピオネスト造り、市道側外周路の整備、樹木調査などの活動を進める。
- ・各種の講習会や講座へ参加して、森の保全活動に要する知識と技能向上を図る。
- ・市で主催する協働のまちづくり行事などへ参加して、森を市民共有の財産として協働で守ることの大切さを伝える。

平成23年度事業の目標

- ・森の整備率50%の達成。
- ・24年3月に市民参加イベント「春休み森の散策会」を開催。
- ・森の保全育成活動について近隣市民へパンフレットなどで呼び掛けサポーターを増やす。
- ・森を囲む市道際の清掃整備を進めゴミ投棄ゼロを達成する。

【事業者紹介】

私たち「七喜の会」は市が主催した第7期〔平成21年度〕松戸里やまボランティア入門講座に参加した仲間が集まり結成しました。現在会員は15名で他に準会員2名、休会2名が登録しています。里やま応援団は発足から今年で8年目に入りました。この間多くの市民が参加して残り少なくなった貴重な樹林を保全育成して、次の世代へ残すことを目的に活動しています。七喜の会では多くの市民の方々が親しみ憩える自然の樹林景観を守り、ふるさと松戸の原風景保全のために少しでもお役に立ちたいと活動しています。

《問合せ先》 (連絡方法(電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

連絡先：副代表 山下 烈 Tel 345-8035 e-mail t-y44410@ka7.koalanet.ne.jp

市民活動助成事業

健康な心を育む勇気づけの対応	団体名	松戸市男女共同参画推進グループ ファミリーサポート・勇気づけ
----------------	-----	-----------------------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	130,000 円
自己資金	30,000 円
助成金	100,000 円

1. 「勇気づけの親子関係実践セミナー」の開催
平成23年4月から平成24年3月まで（8月を除く）
毎月2～3回
2. 「勇気づけ対応の必要性」講演 3回実施
平成23年4月から平成23年12月の間

☆「勇気づけ」とは 子ども達が自立心と責任感を持つ大きな助けとなる親、教師の対応方法です。

☆「勇気づけ」は子ども達に 「居場所があること」、「受け入れられていること」、「子どもの能力」、「親・教師の愛」を伝えます。

☆勇気づけられた子どもは 協力する勇気を持ち、新しいことに挑戦し、責任感を持てるようになります。困難に出会ったときに 建設的に乗り越えていく力が育ち、自分のことだけでなく社会のために自分の力を使うことが出来るようになります。

☆この勇気づけの対応を一人でも多くの子どものために接する方々にお伝えしたいというのが私達の事業です。

平成23年度事業の目標

1. 松戸市内の関係機関（保育園 47、幼稚園 40、小学校 44、中学校 20）に「勇気づけ対応実践セミナーのチラシ」を配布する。
講演：各回 15～20名の参加者を目標とする
講座：各回 16名前後の参加者を目標とする
2. 「勇気づけの対応」を保育所、幼稚園、小学校、中学校の先生方、保護者の方にお伝えする。

【事業者紹介】

松戸市男女共同参画推進グループ
ファミリーサポート・勇気づけ

《問合せ先&連絡方法:担当 福田》

☎ 047-701-7668

✉ kosodatecafe@gmail.com

市民活動助成事業

五香・六実地区歴史再発見事業	団体名	香実会（こうみかい）
----------------	-----	------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

【五香・六実地域】の活性化の一助になるものと思い事業を立ち上げ、香実会を創りました。

事業費	113,000円
自己資金	13,000円
助成金	100,000円

メインタイトル：活気あるまちづくりを目指します。

サブタイトル（三指針）

- 元気なまちづくり
- 心豊かなまちづくり
- 自慢できるまちづくり



（六実稲荷神社での案内風景）

発信：名所旧跡、文化財を地域住民の

皆さんにお知らせし、さらに地域外の皆さんへ発信いたします。

案内人：文化財の地域をA, B, Cの3コースに分け、日程を決めガイドを行います。

平成23年度事業の目標

ガイドマップ（A4サイズパンフレットカラー版三折り）を作成

ガイドブック（A4サイズ小冊子カラー版8ページ）を作成

コース案内：各コースの募集と案内を行います。（年2回）

☆第1回6月1日（水）ABコース案内実施予定

講演会：（演題）五香六実の開拓時代から今日までについて（まちの成り立ち）

☆10月2日（日）六実市民センター実施予定

ワークショップ：連合町会、老人会、地域団体などとコミュニケーションを行う。

☆10月2日（日）六実市民センター実施予定

【事業者紹介】

- 「五香・六実地区」歴史再発見案内人として設立しました。会員数現在13名
- 自分の住んでいる地域の事を知りたい方や、又その良さを地域外の多くの方へ情報発信致します。そしてこの地域に見学、観光にお越し頂く事で、地域の活性化に繋がります。我々案内人はその橋渡しを行います。
- 五香六実地区が好きで、歴史に興味ある人達の集まりです。
- 興味が御座いましたら、是非ご参加下さい。

《問合せ先》 香実会（こうみかい）

〒270-2203 松戸市六高台3-117-1

TEL&FAX 047-385-2719 連絡先 岩本 昌人

市民活動助成事業

<p>発達障害に関わる方々と ご家族支援事業</p>	<p>団体名</p>	<p>Wing (ウィング)</p>
--------------------------------	------------	--------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	150,200円
自己資金	50,200円
助成金	100,000円

- ・当事者支援
 - ・ フリースペースの提供（市の施設）〔仲間作り・相談と居場所〕
 - ・ 自律（自己コントロール）訓練・リラクゼーション〔苦しみから解放する方法を習得することにより精神的安定をめざす〕
 - ・ 学習支援（日本語や各教科を通所型・訪問型で対応）〔自信の回復・教科の理解〕
 - ・ 市民団体への参加〔社会性・人脈を育て、人への信頼感・郷土愛作りが目的〕
- ・当事者とご家族支援
 - ・ 講演会・勉強会〔課題の共有・解決・相互理解・自助的役割〕
- ・地域への啓発活動
 - ・ 講演会〔当事者理解の普及活動〕
 - ・ 市民団体への参加〔団体への支援・理解者を増やす〕

上記の事業内容により当事者・ご家族への心理的支援、学習的支援、情報の提供、生活上の相談、就労支援などを行い、当事者の経済的自立を目指し、また地域への啓蒙活動により支援者を増やし、社会の中で不適応を起こしている方々の生活の向上、ノーマライゼーションの社会を目指します。

【事業者紹介】

Wingは、不登校や発達障害のある方、またなんだか理由は分からないけど、学校や職場で生きづらさを感じている方が、よりよい社会生活を行い、地域社会に参画していけるようにカウンセリングや学習支援などを中心として当事者とご家族の支援、地域社会への啓発活動をしていくことを目的としています。

《問合せ先》 (連絡方法 (電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

Wing (ウィング) 047-360-8299 担当: 福田

市民活動助成事業

福祉のまちづくり推進のためのシンポジウム・先進地見学事業	団体名	バリアフリーまつど市民会議
------------------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	160,000円
自己資金	60,000円
助成金	100,000円

1) シンポジウムの開催 (6月～9月)

福祉のまちづくりの先進事例に関する講演会を開催し、市内の福祉・教育関係者に「福祉のまちづくり教育」の紹介をしてもらう。

今後の福祉のまちづくりのあり方、その普及・啓発について、それぞれの立場から意見交換を行う。

2) 見学会の開催 (11月～12月)

幅広く市民に呼びかけて福祉の先進地・事業の見学会を実施する。

見学会を通じて福祉のまちづくりの今後の取り組みの方向性についても知見を得る。

平成23年度事業の目標

- 1) 福祉のまちづくりに理解のある人を増やす。(シンポジウム参加者 80名を目標)
- 2) 見学会への参加で、福祉のまちづくりへの理解と活動に確信を持ってもらう。(30名を目標)
- 3) 二つの取り組みを通じて、福祉のまちづくりのボランティアの育成、関係機関とのネットワーク作りの土台を作る。

【事業者紹介】

バリアフリーまつど市民会議は、2005年5月松戸市の『交通バリアフリー基本構想・実施計画』に基づき、市民と行政が協働でバリアフリー化を促進するために結成されました。

ウォッチングや体験教室などの活動をとおして『バリアのないまちづくり』の大切さや必要性を広く啓発しています。

《問合せ先》 代 表 元山幹雄 ☎&fax 047-345-8215
 事務局長 室谷 勉 ☎&fax 047-385-6437
 E-mail 瀧 宏 rakusui@muse.ocn.ne.jp

市民活動助成事業

不登校の理解を深める本の作成と 配布事業	団体名	不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』
-------------------------	-----	---------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	200,000円
自己資金	100,000円
助成金	100,000円

『不登校体験をした子どもや親の体験記(仮題)』を1000部作成し、学校、PTA、相談機関、大学の研究室などに配布します。

◎ 不登校の子どもが増えています。子どもの苦しみに耳を傾け、理解する事を抜きにして、無理に学校に行かされ、精神的に追い詰められ回復に時間がかかるケースがまだ多いのです。体験をした方々の体験記からは、どうしたら元気を回復するか、学ぶ事が出来ます。不登校の理解を深める本を作成し、配布・広める事により、『不登校の子どもが元気になって行く道筋』を広めたいと考えます。

4～6月……年間計画づくり、編集会議を行います。会のニュースや親たちの会や講演会で趣旨を伝え、協力を仰ぎ、原稿を募集します。

7～9月……原稿を検討し、割り付け、カット、装丁など決めて行きます。

10～12月……印刷所に発注、完成させ、学校、PTA、相談機関、大学の研究室などに配布します。相談に来た方、また、会員や地域の方々に読んで参考にしていただくようすすめます。

1～3月……完成した本をもとに、読んだ方々の感想をまとめたりしながら、今後の活動のあり方を考えます。

出版記念講演会(事業終了後の6月実施予定)を企画・検討します。

平成23年度事業の目標

- ◎ 『不登校体験をした子どもや親の体験記(仮題)』を1000部作成します。
- ◎ 『体験記』に載せる原稿を募集します。会のニュース、親の会、講演会などでこの事業について広め理解を得るようにします。
- ◎ みなさんの声を聴きながら、読みやすい本を作成します。
- ◎ 本を学校、PTA、相談機関、大学の研究室などに配布します。

【事業者紹介】

不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』 代表 鹿又 克之

- * 1994年、不登校がとても増えた時、親・教員・医師・などで会を設立、「親たちの会」や「講演会」「進路相談会」「相談活動」そして、ニュース発行、小冊子の発行等をおこない、不登校・子ども理解を積み重ねて来ました。
- * 2003年、子どもの居場所『ひだまり』を開設。不登校を体験している子どもたちが大学生と交流しながら、元気になる、学校・社会につながるなど歩みを進めています。

《問合せ先》

〒271-0063 松戸市北松戸2-3-6 第1六協ビル2階 電話/FAX 047-361-8757 鹿又
<http://toukatunokai.web.infoseek.co.jp/>

市民活動助成事業

若者と協働の森づくり	団体名	松戸里やま応援団 三樹の会
------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み 1) 金ケ作小学校の自然観察、環境教育、森の遊び受け入れやイベントの開催 2) 金ケ作町会主催の「金ケ作まつり」の竹細工コーナーを担当地域住民との交流 3) ミニ門松作りのイベント開催で地域の人達の参加を呼びかける。 4) 過去4年間の Let's ボランティア体験者に呼掛け、「三樹の会ジュニア隊」を募る。 ・ 第1土曜日の定例活動および森のイベントを行う。 ・ 定例活動は、アダルト会員と一緒に森の保全作業を行う。 落葉かき、下草刈り、枯れ木（竹）、不要木（竹）の処理等	事業費 350,000円
	自己資金 250,000円
	助成金 100,000円

平成23年度事業の目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高生、大学生は進学、就職等により取り込んで定着して貰う事は多々難しいと思うが、ジュニア隊を結成して将来のみどりの担い手となる動機づけをしたい。 ・ 地域の人々の参加を呼びかけ、会員の10%(3名)以上を新規会員に取り込み地域の人々が ・ 親しめる森づくりを目指す。 ・ 第1土曜日の定例活動のジュニア隊(中高大学生)の参加者5名以上を確保、地権者様とも ・ 連携して春の筍掘り、夏にジュニア隊中心に地域住民と夏休み工作教室などのイベントを行う。
--

【事業者紹介】

平成17年度「里やまボランティア入門講座」を受講したメンバーが集まって立上げた団体で、年々減少して行く市内の緑の保全を目的に設立しました。

活動は6年目を迎え、会員は28人増え、民有林2カ所で保全活動のお手伝いをしています。

H23年度は青少年と共に活動することを目的のひとつと考えています。

活動は月3回の定例活動である森の清掃・下草刈りの保全作業の他に緑と花のフェスティバルに出店し森の恵みを利用した竹炭、竹細工品、木工品を廉価で販売し、市民に喜ばれると同時に活動資金を得ています。

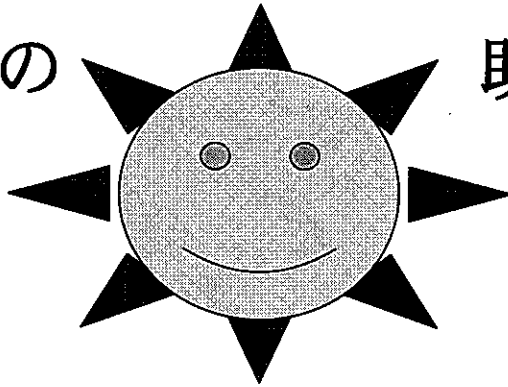
《問合せ先》松戸里やま応援団「三樹の会」担当：早川 携帯：090-1596-2815

松戸市

協働のまちづくり基金

寄附
募集中

あなたの寄附がまちを明るく元気にする
市民活動の 助成金になります。



みんなの思いをつなぎます

このお金を
社会のために
役立てたい

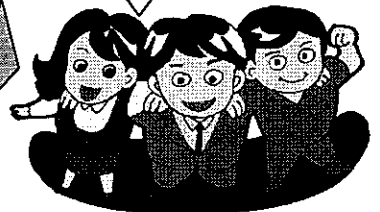
こんな活動で
社会貢献したい

美化 自然 環境 教育
福祉 子育て 相談



寄附

助成



市民、団体、企業

税の優遇措置が受け
られます。

積立
寄附と同額
を積立てる
マッチング
ギフト方式

松戸市

審査機関

協働のまちづくり協議会

採択
市民活動
助成制度

申請

市民活動団体

助成金は1事業
10万円以内

助成対象となる市民活動は、毎年度募集し、公開審査を経て採択候補を決定します。この制度では、皆さんからの寄附がたくさん集まるほど多くの市民活動を支えることができます。

ぜひとも、皆さんのご理解、ご協力をお願いいたします。

平成23年5月

発行 松戸市 市民環境本部 市民担当部 協働推進課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mckyoudou@city.matsudo.chiba.jp